

小浜市人口ビジョン

(改定版)

令和8年3月
福井県 小浜市

目 次

1. はじめに	1
(1) 背景と目的	1
(2) 小浜市人口ビジョンの位置づけ	1
(3) 小浜市人口ビジョンの対象期間	1
2. 小浜市の人口の現状分析	2
(1) 人口動向分析	2
3. 小浜市の将来人口の推計と分析	11
(1) 総人口の推移	11
(2) 仮定値を用いた総人口の推移	14
4. 小浜市の人口の将来展望	16
(1) 将来展望に必要な調査・分析	16
(2) 目指すべき将来の方向	31
(3) 目指すべき将来人口	33

1 はじめに

(1) 背景と目的

国は、「強い」経済と「豊かな」生活環境の基盤に支えられる「新しい日本・楽しい日本」を目指す姿とした「地方創生 2.0 基本構想」（以下「本構想」という。）において、少子化対策等により、今後の人口減少のペースが緩まるとしても、当面は人口・生産年齢人口が減少するという事態を正面から受け止めた上で、「政策の 5 本柱」および「強い経済」、「豊かな生活環境」、「選ばれた地方」という 3 つの政策目標の実現に向けた取組を力強く展開することとしている。

本構想の実現を図るため、まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 8 条第 1 項に規定する「まち・ひと・しごと創生総合戦略」として「地方創生に関する総合戦略」が令和 7 年 12 月 23 日に閣議決定されました。

本市においては、こうした国の状況や社会情勢、これまでの市の取組や課題を踏まえるとともに、平成 27 年 10 月に策定した「小浜市人口ビジョン」の推計から約 10 年を経過した現況を踏まえる中で、より実現可能性のある人口減少対策を導き出すため策定するものです。

(2) 人口ビジョンの位置付け

人口ビジョンは、国の長期ビジョンの趣旨を踏まえ、小浜市における人口の将来分析を行い、人口に関する市民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すものです。

また、第 2 期小浜市人口ビジョンは、「第 6 次小浜市総合計画」および総合計画に掲げた政策目標を実現するための施策等を示す「第 3 期小浜市総合戦略」を策定する上での基礎資料として位置づけられることを十分に認識して策定します。

(3) 人口ビジョンの対象期間

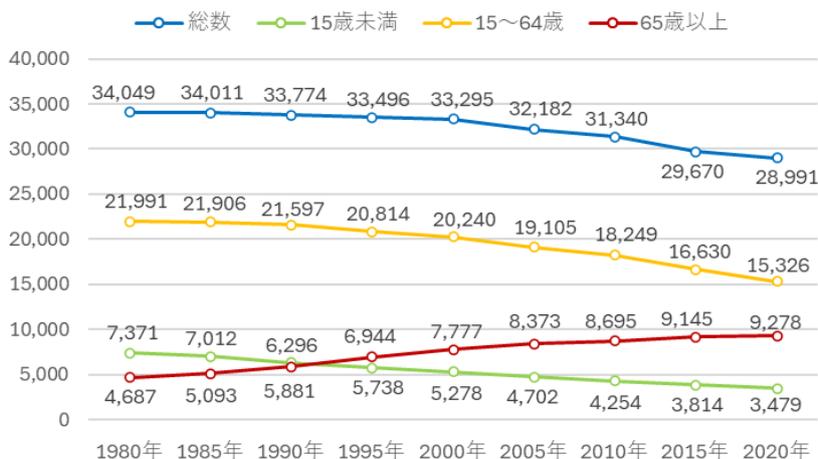
人口ビジョンの対象期間は、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の推計期間に併せ令和 32 年（2050 年）とします。

2 小浜市の人口の現状分析

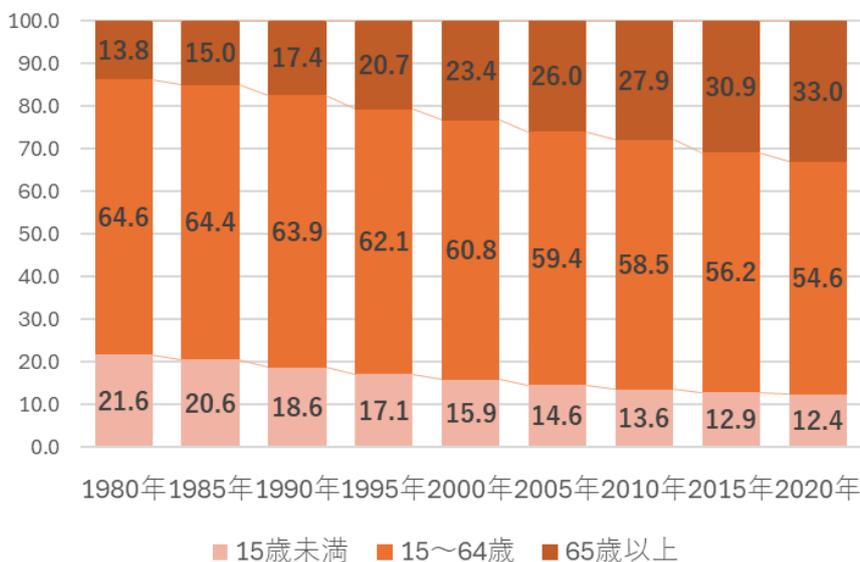
(1) 人口動向分析

(ア) 総人口、年齢3区分（年少・生産年齢・老年）人口の推移

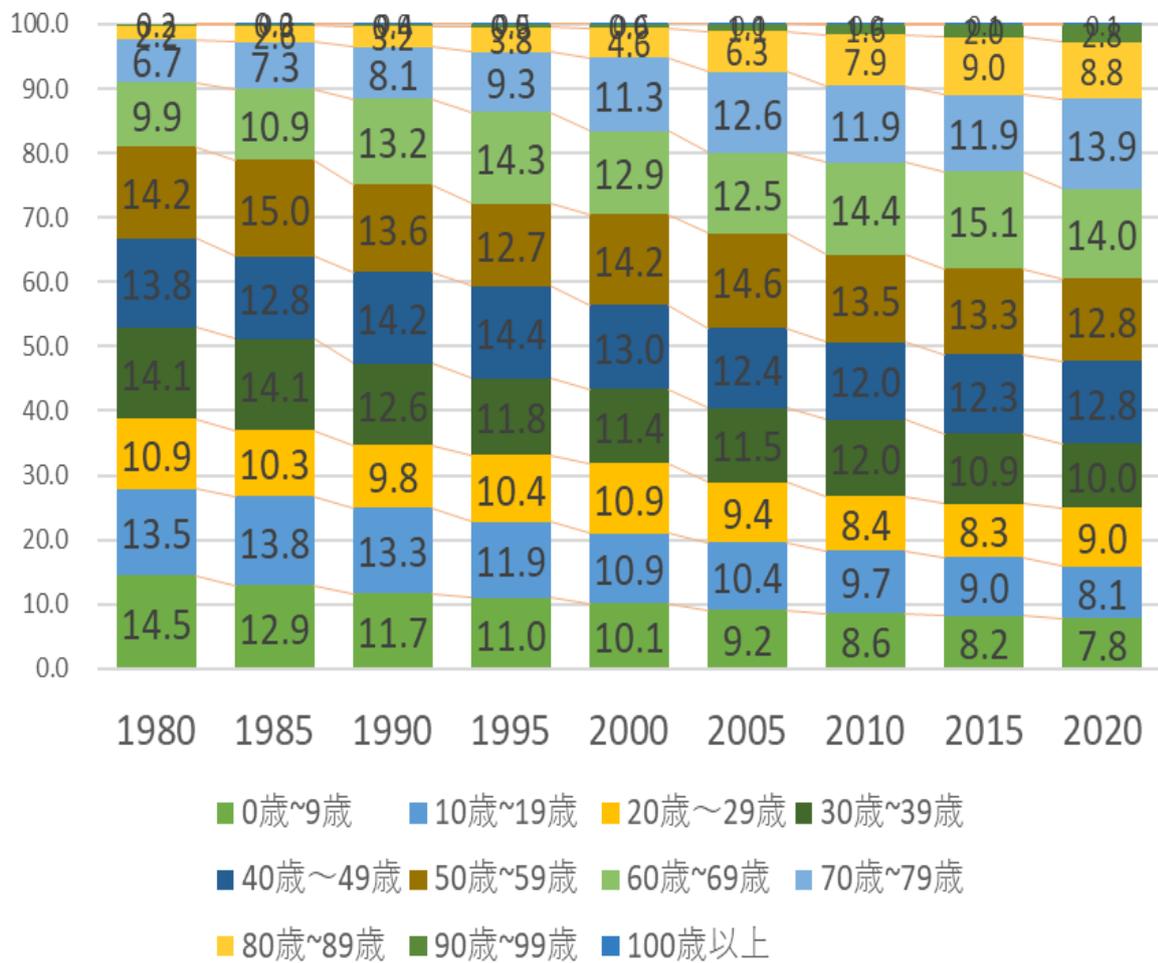
- ・2020年（令和2年）の小浜市の人口は28,991人であり、1980年（昭和55年）以降、減少傾向が続いており、40年間で総人口は5,058人減少している。2015年以降は人口が3万人を下回っている。
- ・1990年（平成2年）までは年少人口が老年人口よりも多かったものの、1995年（平成7年）以降は逆転し、老年人口が年少人口よりも多くなっている。



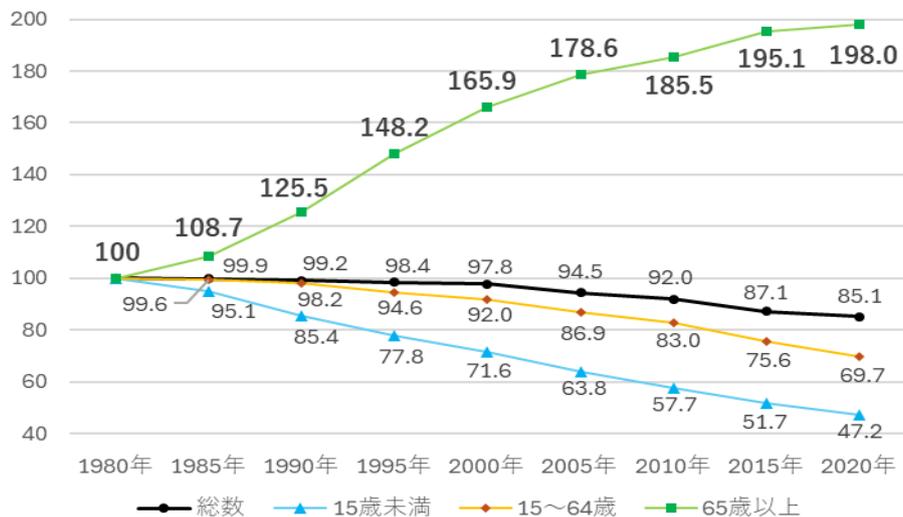
- ・年齢3区分別には、2020年時点の15歳未満の年少人口割合は12.4%、15~64歳の生産年齢人口割合は54.6%、65歳以上の老年人口割合は33.0%となっており、年少人口割合と生産年齢人口割合は一貫して減少傾向、老年人口割合は一貫した増加傾向にあります。
- ・年少人口割合と生産年齢人口割合は40年間でそれぞれ10%程度ずつ減少している一方、老年人口割合の変化は顕著で、1980年の13.8%から20%近く上昇しています。



年代別人口推移（割合）

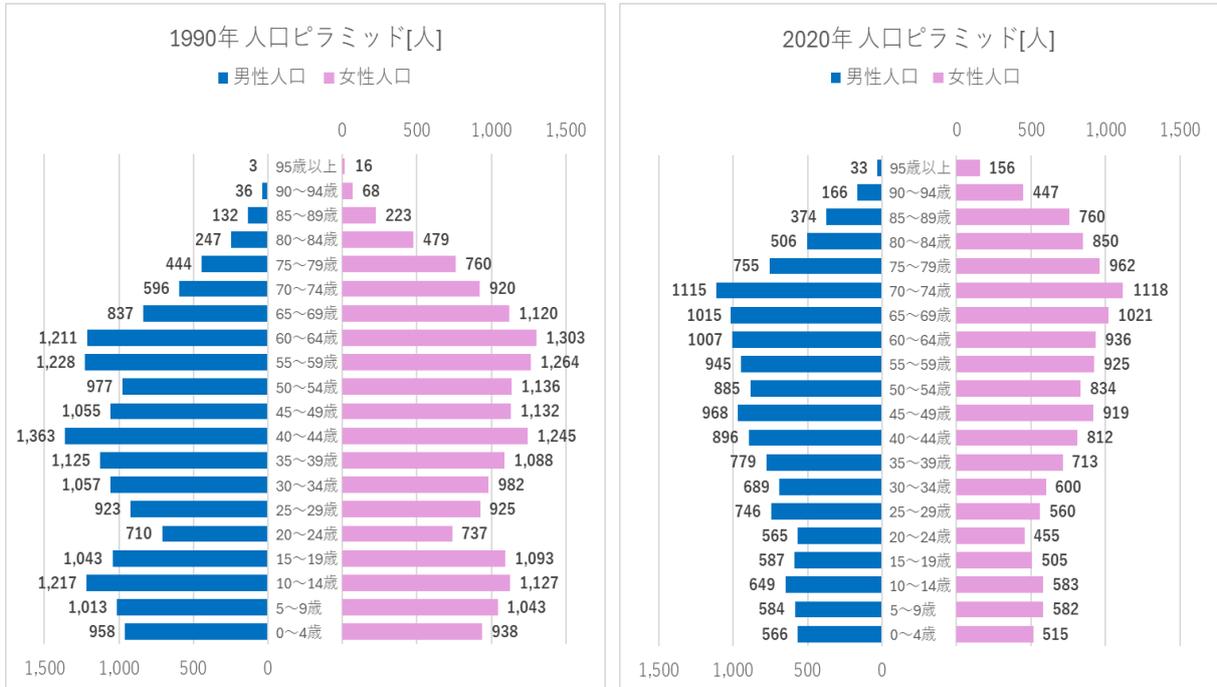


・1980年を基準（100）とした場合、2020年の小浜市の人口は85.1、年少人口は47.2、生産年齢人口は69.7、老年人口は198.0となっている。全体の人口、年少人口、生産年齢人口は減少、特に年少人口は半分以下になっているのに対して、老年人口は2倍近く増加している。

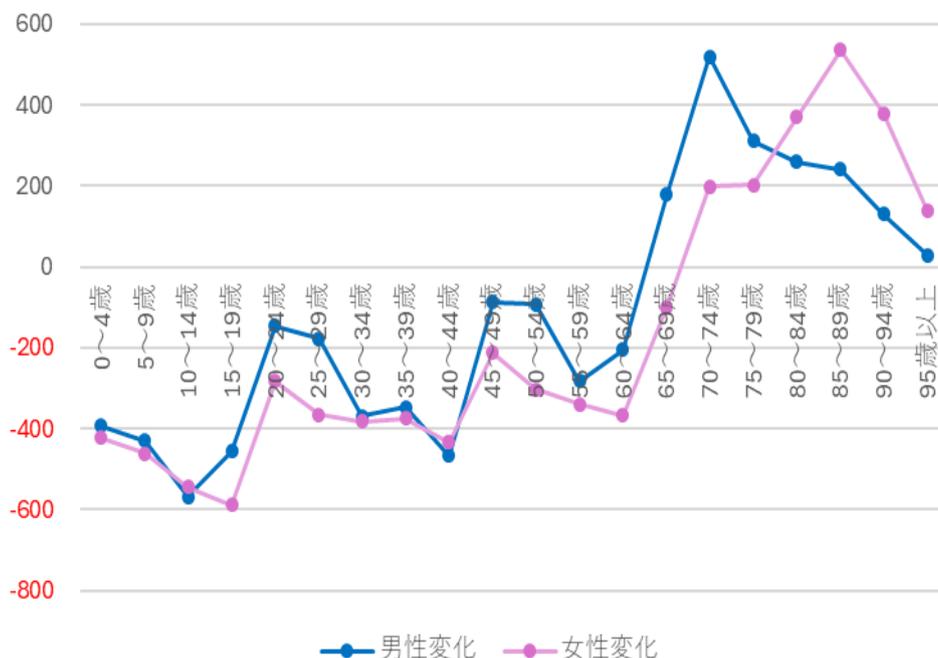


(イ) 男女、年齢5歳階級別人口の推移

- ・1990年には20歳～29歳が他階級と比較して少ない「ひょうたん型」となっているが、少子化・高齢化の影響により2020年には65歳以上の年齢階層の構成比が高い「つぼ型」となっている。

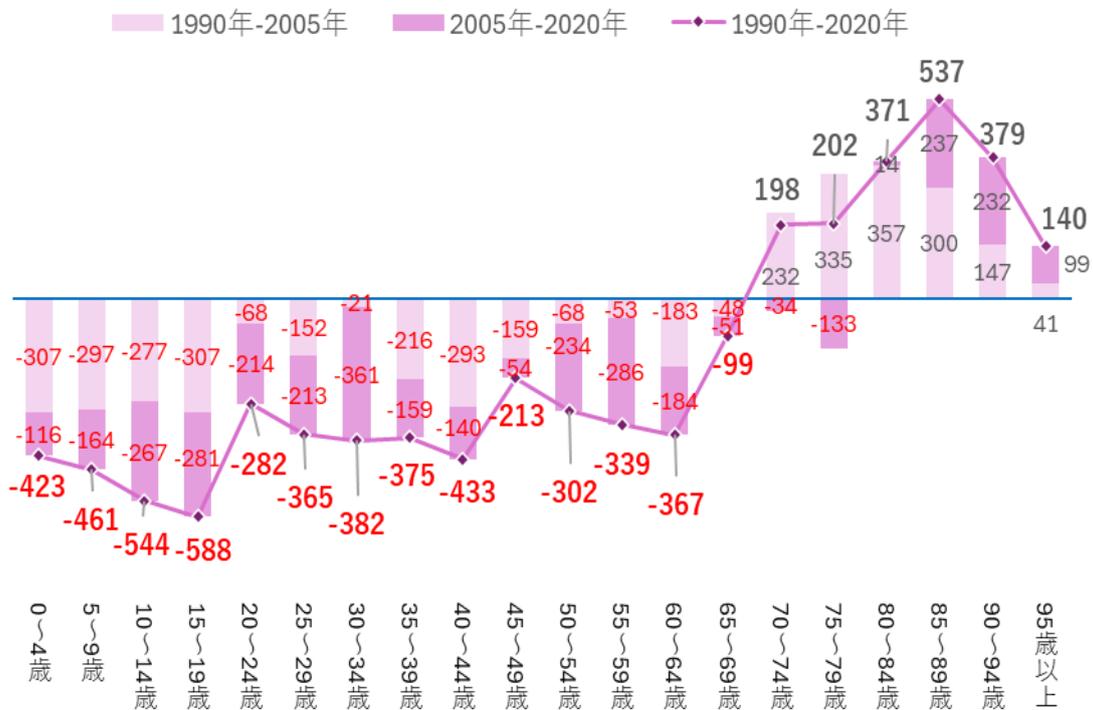
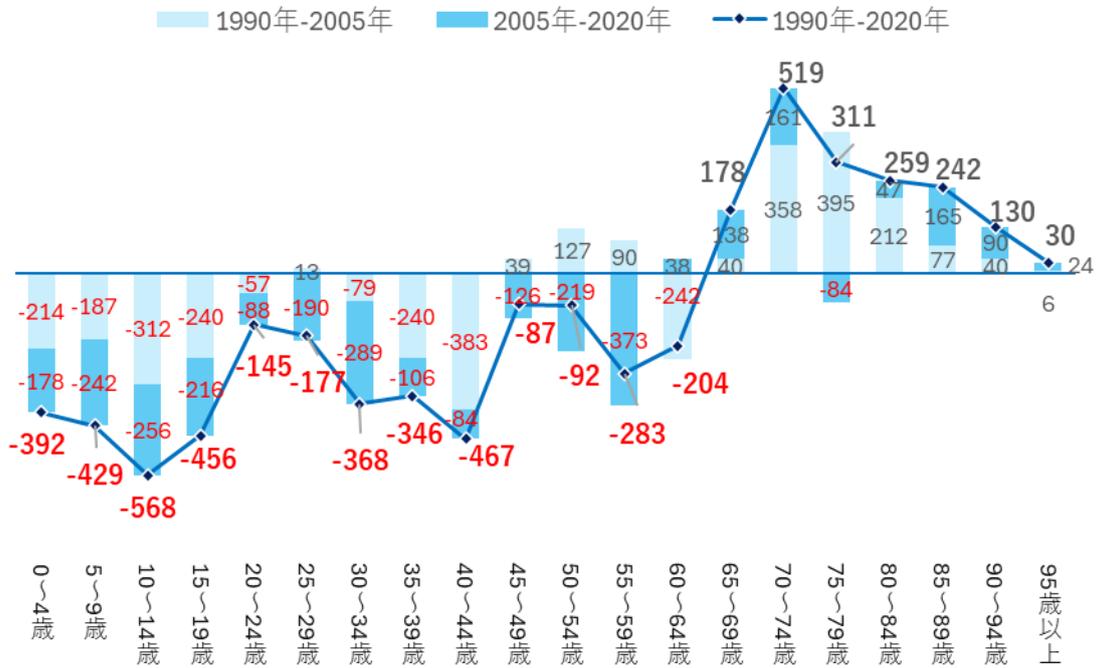


- ・1990年から2020年の変化をみると、男性は64歳以下、女性は69歳以下で減少していることが分かる。そして、70～74歳の男性、85～89歳の女性が最も多く増加し、10～14歳の男性、15～19歳の女性が最も減少している。



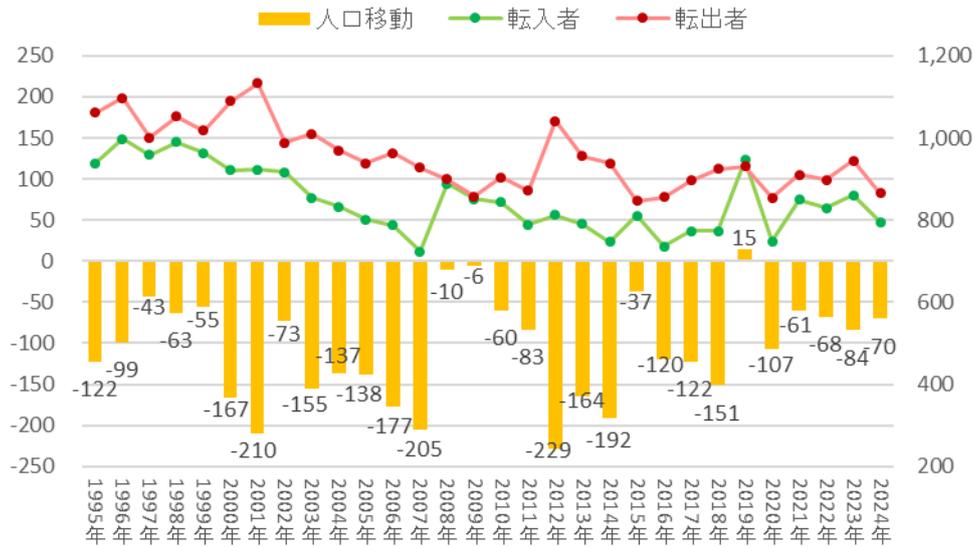
(参考)

- 1990年から2020年の変化において、中間時点の2005年を基準に、前半（1990年～2005年）と後半（2005年～2020年）の変化を比較すると、男性は前半では、60～64歳は減少しているものの45歳以上で増加していたが、後半には45～59歳が減少している。また、女性は一貫して69歳以下が減少している。



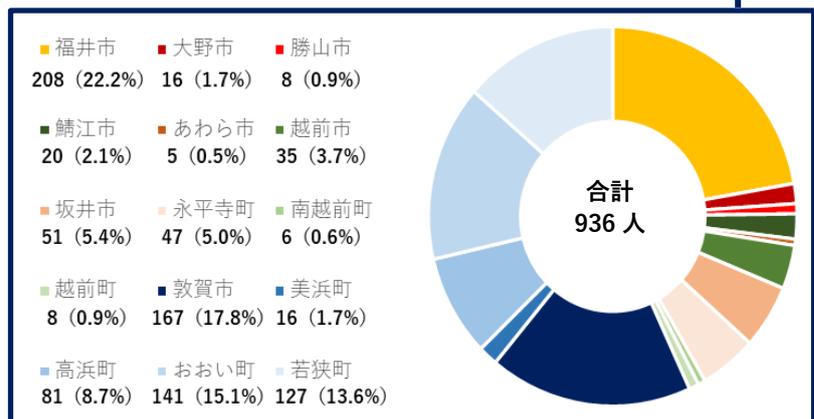
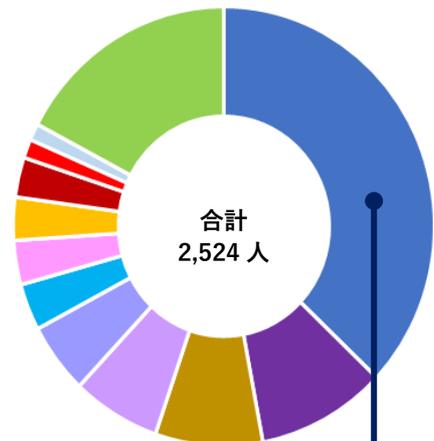
(ウ) 転入者数・転出者数・人口移動の推移

・転入者数は2002年までは900人を超えていたが、それ以降2019年を除いて900人を下回っている。2008年、2019年には前年比で大幅に増加したものの（2019年は1994年以来の転入超過となっている）、1995年以降減少傾向にある。一方、転出者数は2001年をピークに減少傾向の中、2012年には前年比で大幅に増加したものの、1,100人を超えていたピーク時から2024年で250人程度減少している。

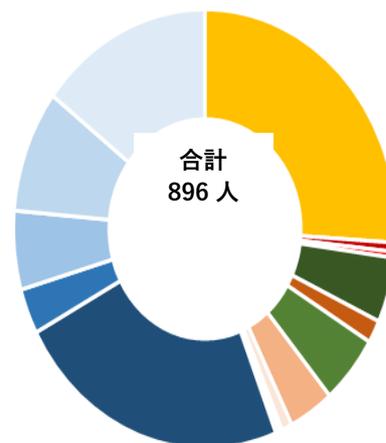
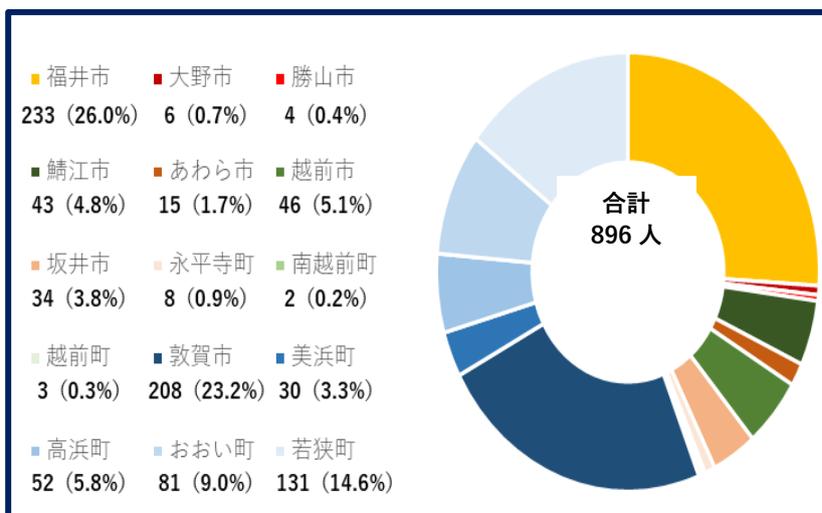
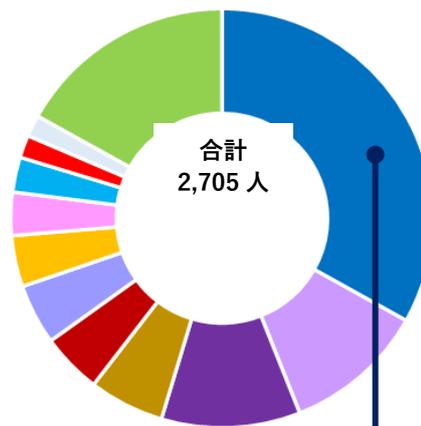
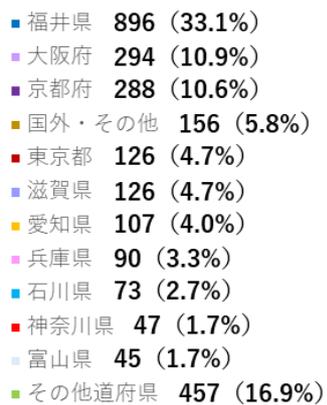


- ・近年3カ年（2021（令和3）年10月～2024（令和6）年9月）の転入者（合計）の内訳をみると、福井県内の転入が最も多く（936人、37.1%）、次いで京都府（251人、9.9%）、大阪府（171人、6.8%）、滋賀県（132人、5.2%）と近隣の府県からの転入が続いている。
- ・県内では、福井市（208人、22.2%）が最も多く、次いで敦賀市（167人、17.8%）、おおい町（141人、15.1%）となっている。

福井県	936 (37.1%)
京都府	251 (9.9%)
国外・その他	208 (8.2%)
大阪府	171 (6.8%)
滋賀県	132 (5.2%)
石川県	87 (3.4%)
兵庫県	82 (3.2%)
愛知県	80 (3.2%)
東京都	74 (2.9%)
神奈川県	35 (1.4%)
富山県	31 (1.2%)
その他道府県	437 (17.3%)

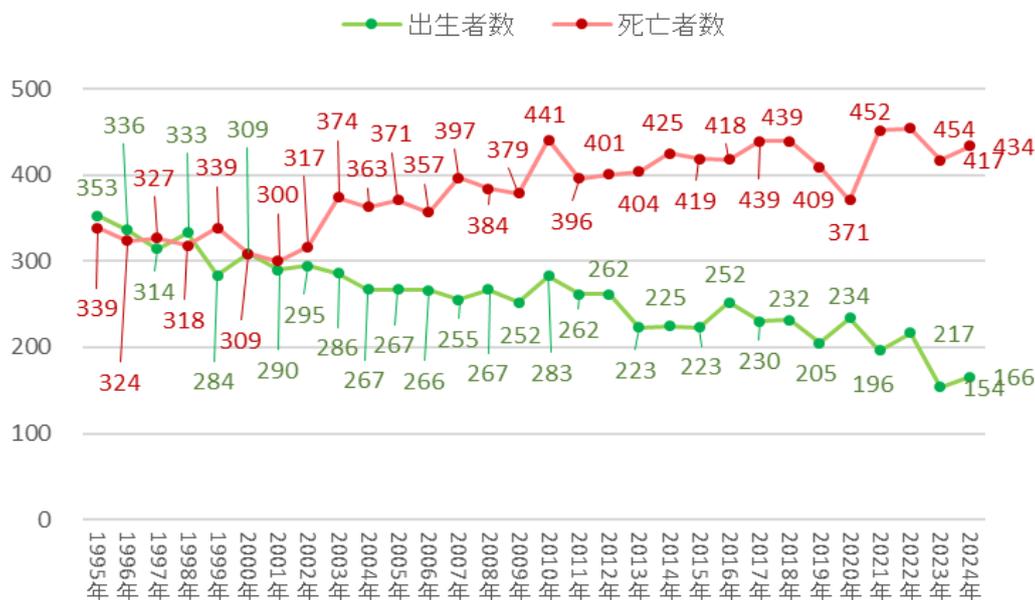


- 一方、転出者の内訳をみると、転入と同様、福井県内の移動（転出）が最も多く、次いで大阪府（294人、10.9%）、京都府（288人、10.6%）、東京都（126人、4.7%）が続いている。
- 県内では、福井市（233人、26.0%）が最も多く、敦賀市（208人、23.2%）、若狭町（131人、14.6%）が続いている。
- 合計で見ると181人の転出超過となっているが、福井県内の移動のみを見ると、40人の転入超過となっている。



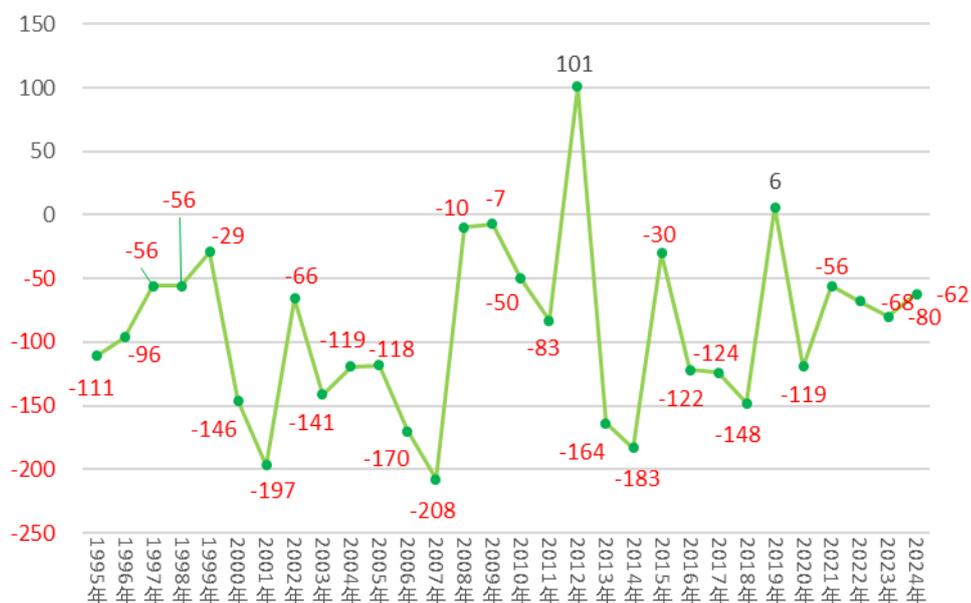
(エ) 出生者数・死亡者数の推移

- ・出生者数は1995年には353人だったものの、年々減少傾向にあり、2021年には196人となり、初めて200人を下回り、2024年は166人となっている。一方、死亡者数は2009年には379人となっているものの、2010年以降は400人前後で推移している。

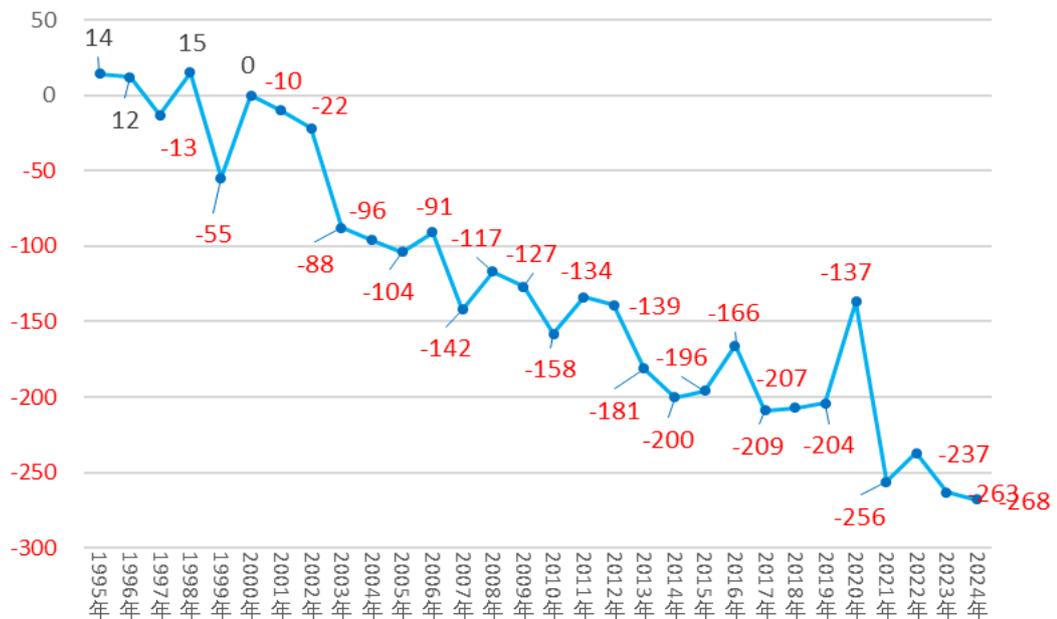


(オ) 社会増減、自然増減数の推移

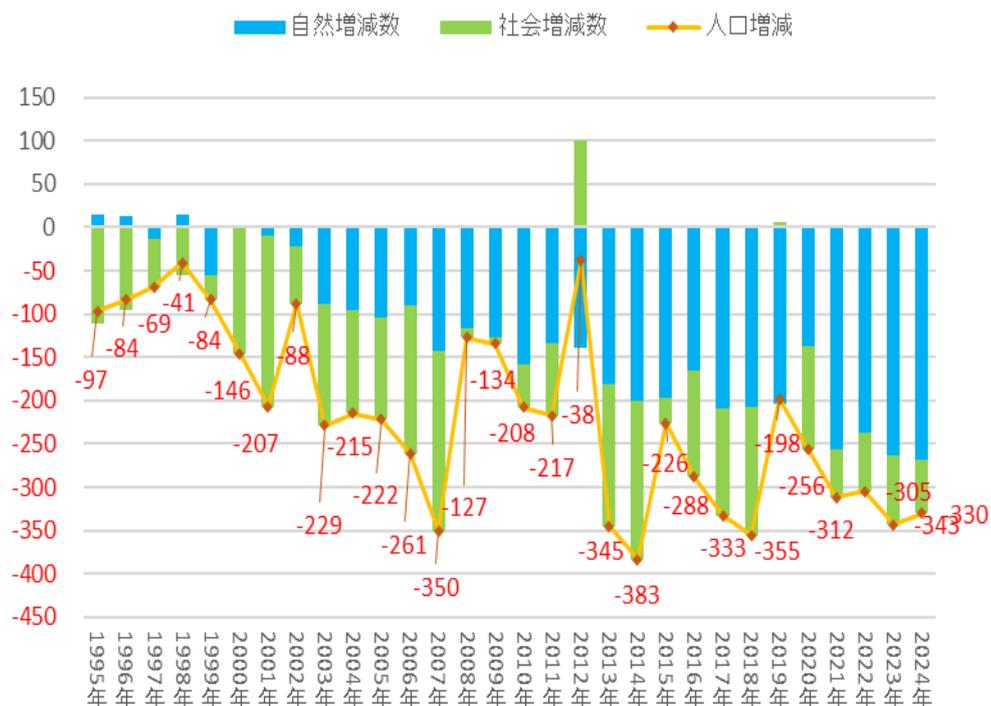
- ・社会増減をみると、1995年から2024年の間で社会増であったのは2012年、2019年の2年間のみで、それ以外の年は社会減となっている。
- ・なお、2012年は、調査対象に外国人が追加されたことにより、従前から市内に居住していた外国人が社会移動に計上されたことにより、数値上で社会増となっているものである。



- ・2002年頃までは1999年を除き出生者数と死亡者数の差はあまりなかったが、2003年以降死亡者数が出生者数を大きく上回って（88人の自然減）以降、自然減が続いている。また、2014年には1995年以降初めて200人の自然減となり、2016年には166人の自然減と回復の兆しを見せたものの、2024年には268人の自然減となっている。

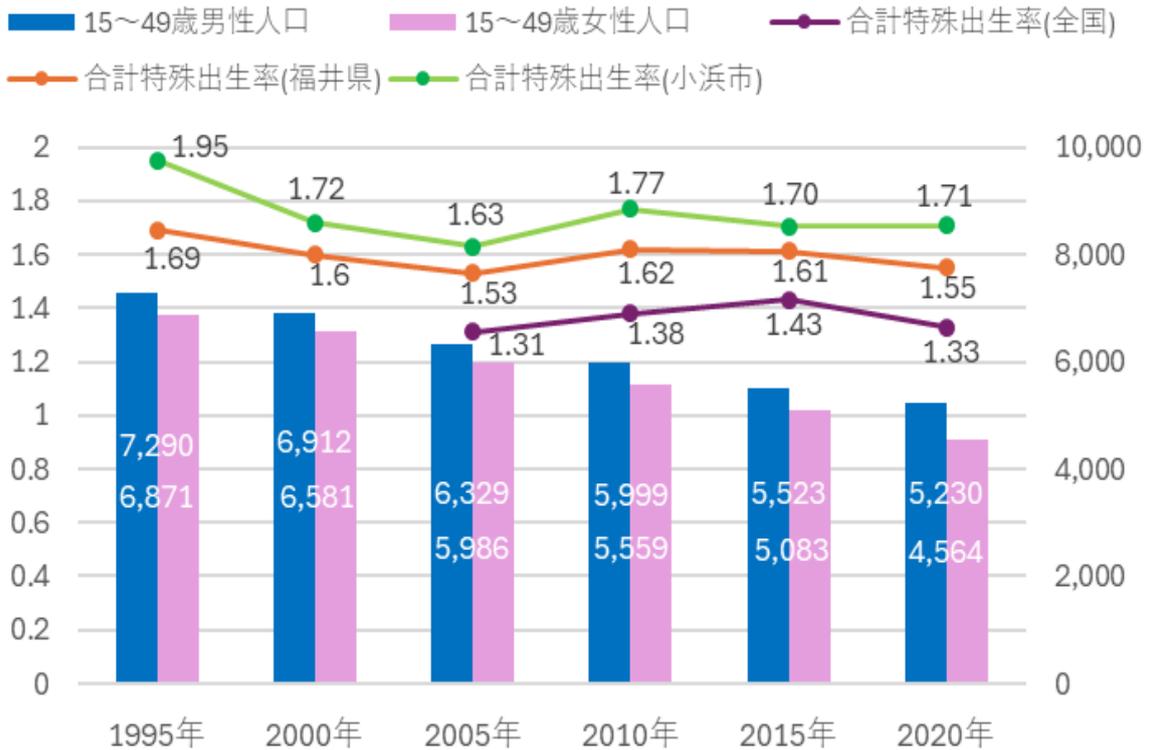


- ・自然増減と社会増減を合わせた人口増減をみると、1995年以降は人口減が続いており、特に自然減の影響が大きい。



(カ) 合計特殊出生率の推移と総人口の推移および推計

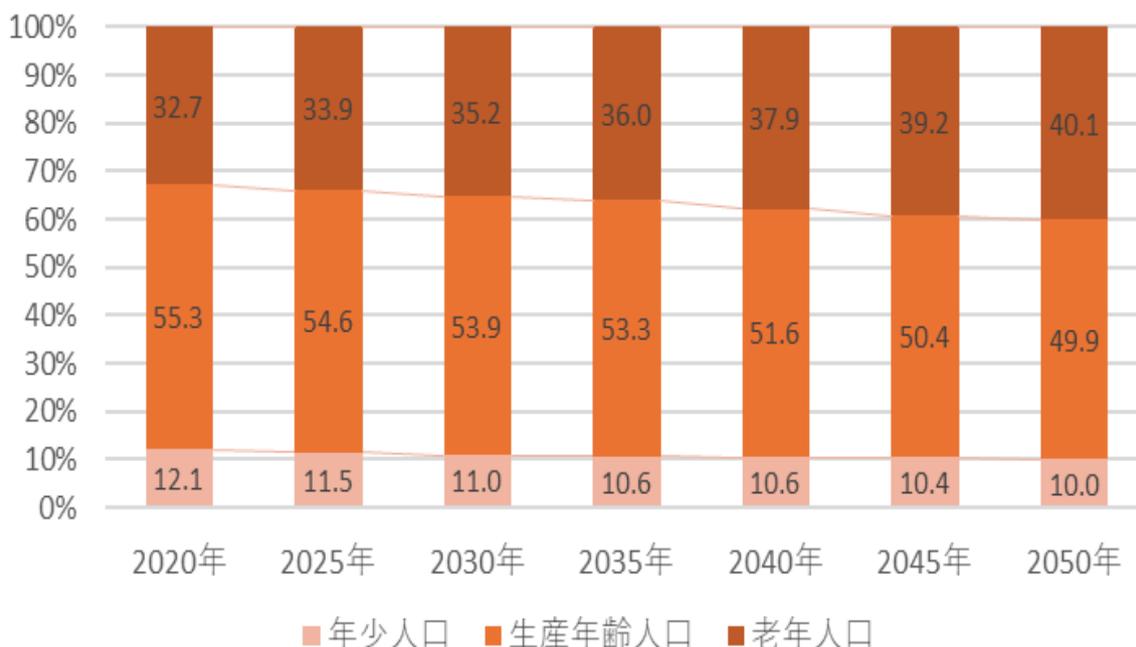
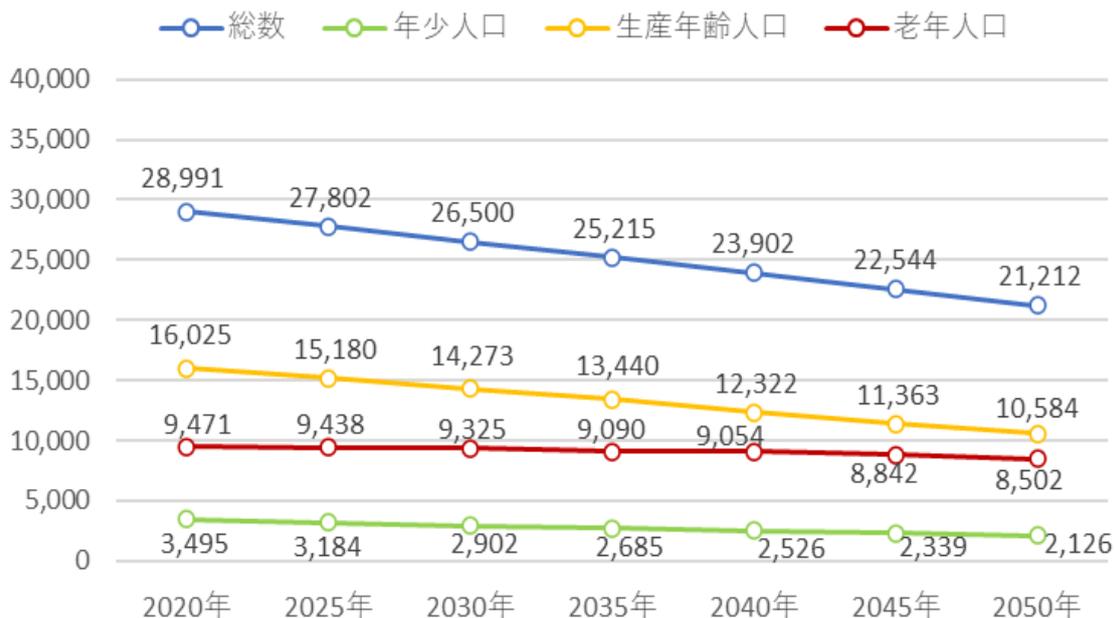
- ・小浜市の合計特殊出生率は2018年～2022年で1.71となっており、福井県（1.55）や全国平均（1.33）よりも高い水準にある。また、女性が出産可能とされる15～49歳の人口を性別にみると、1995年以降は男性が女性を上回っており、2020年には男性の方が女性よりも666人多くなっている。なお、人口を維持するために必要とされる出生率「人口置換水準」2.07程度には達しておらず、人口減少は依然として進行する。



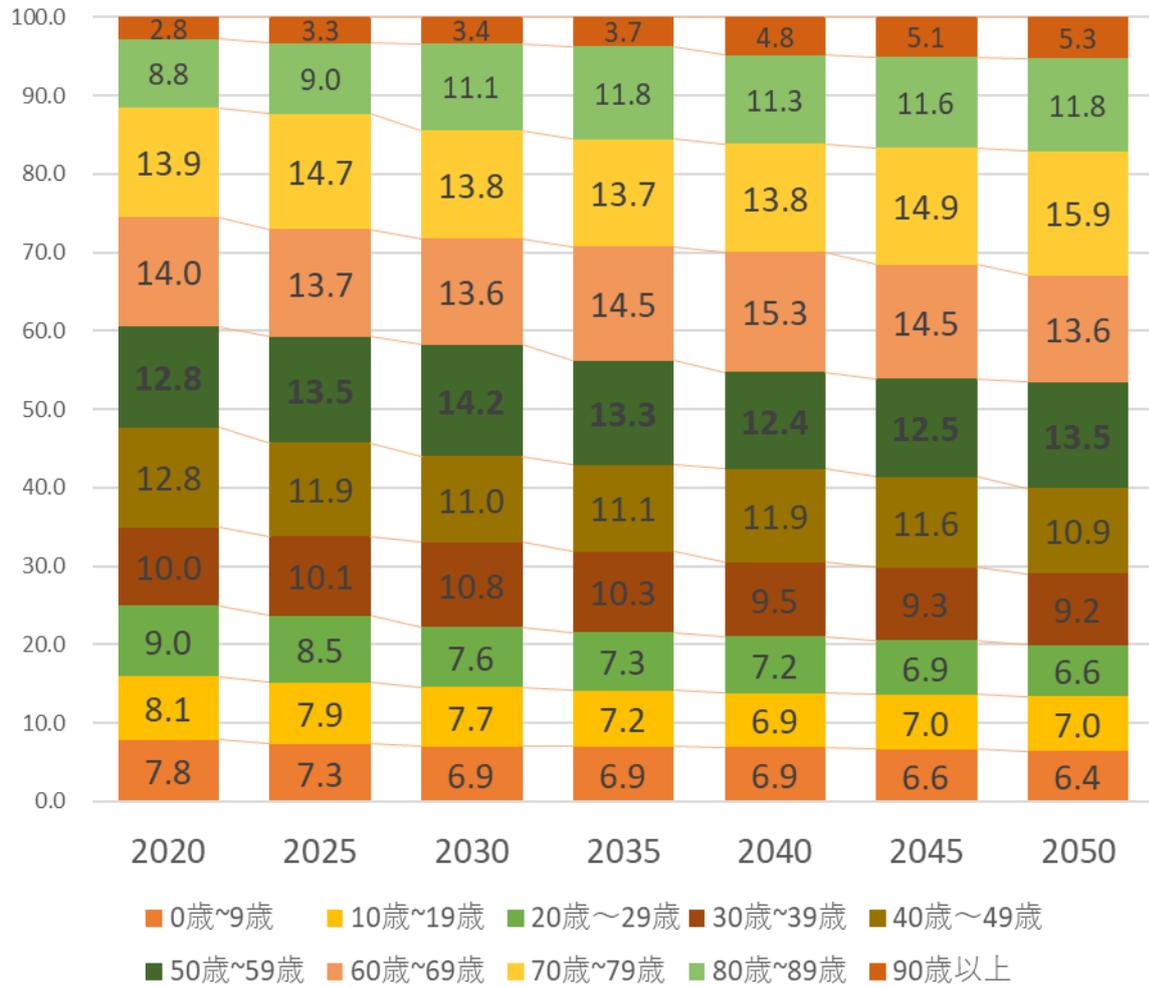
3 小浜市の将来人口の推計と分析

(1) 総人口、年齢3区分（年少・生産年齢・老年）人口の推移

・国立社会保障・人口問題研究所（以下、社人研）による過去の趨勢等を踏まえた人口推計結果では、2050年の小浜市の人口は21,212人（2020年の73.2%）となっている。年齢3区分別には、各年代で2020年をピークに各年代で減少することが見込まれている。また、人口割合をみると、2050年には年少人口が10%になることが見込まれている。

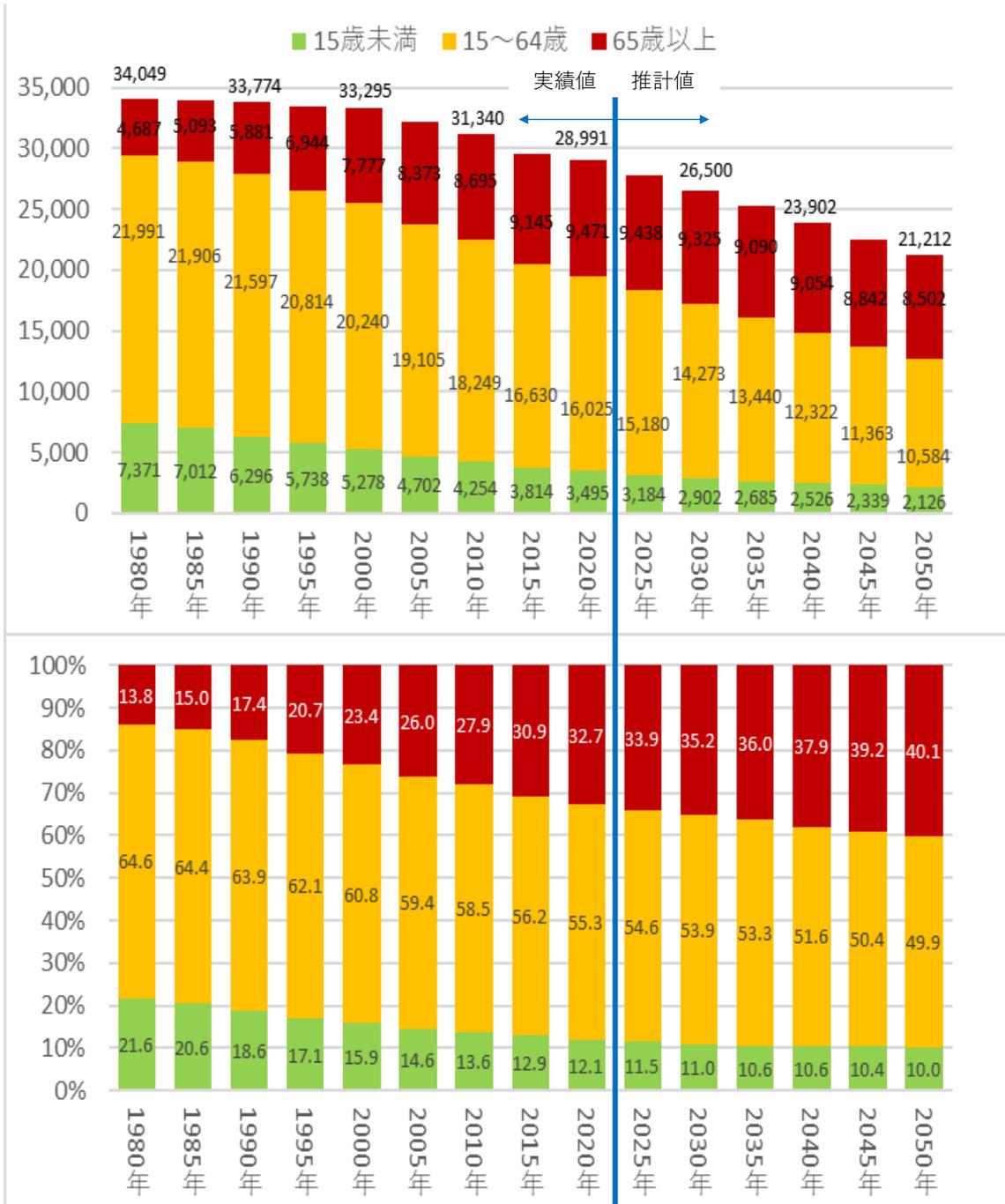


年代別人口推移（割合）



(参考) 1980年実績値から2050年推計値まで

- 1980年には34,049人だった人口が2020年には28,991人になり、2050年には21,212人(推計値)になるとされている。
- 1980年と2050年(推計値)を比較して、1980年を100%とすると、65歳以上は181%、15～64歳は48%、15歳未満は29%になるとされている。
- 1980年には13.8%だった65歳以上の割合が2050年には40.1%になるとされている。また、21.6%あった15歳未満が10.0%になるとされている。



(2) 仮定値を用いた総人口の推移（社人研推計準拠およびシミュレーション）

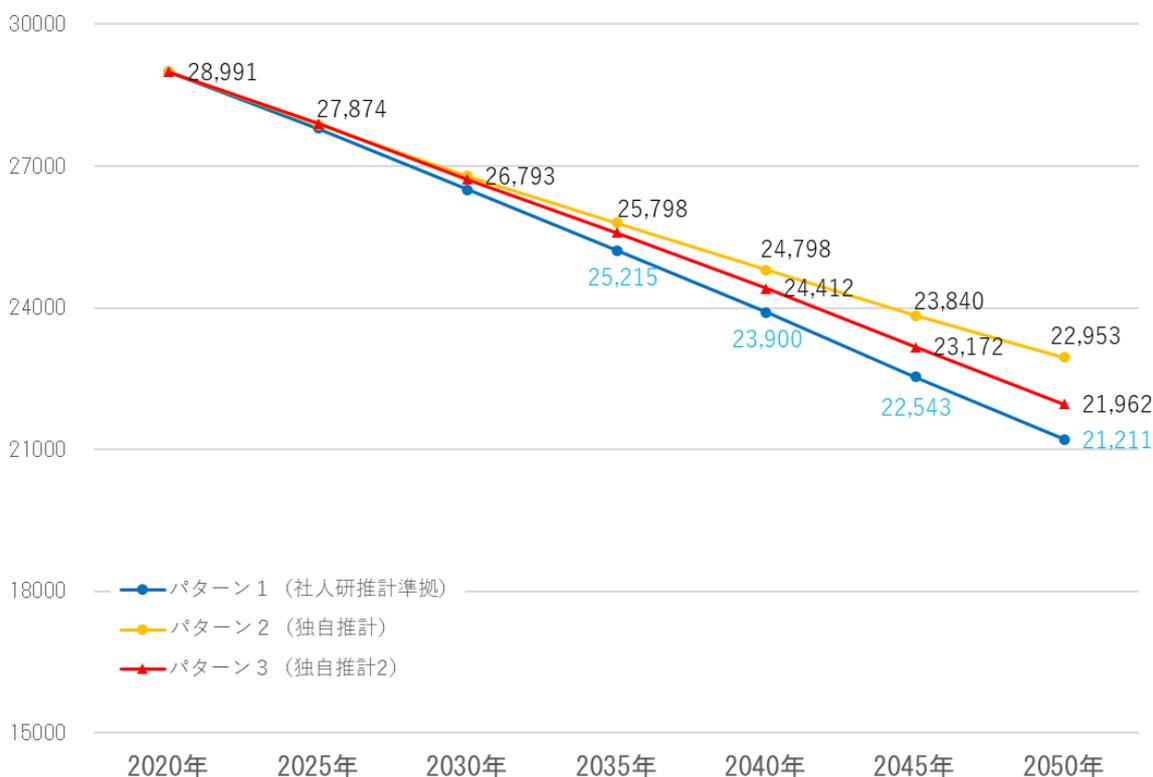
- ・パターン1（社人研推計準拠）、パターン2（独自推計：合計特殊出生率を上方修正し、純移動が均衡した場合）、パターン3（独自推計2：パターン2と同様の合計特殊出生率を設定）の3つのパターンにて、総人口の推移を推計する。
- ・パターン2及び3の設定条件として、合計特殊出生率の想定推移は下記表のとおり。

	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
合計特殊出生率	1.80	1.90	2.03	2.07	2.07	2.07

※後述する「小浜市の人口の将来展望」にて実施の「成人式アンケート」及び「高校生等アンケート」の結果を踏まえて、2035年時点の数値を設定。その後、人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準）を維持することを想定。

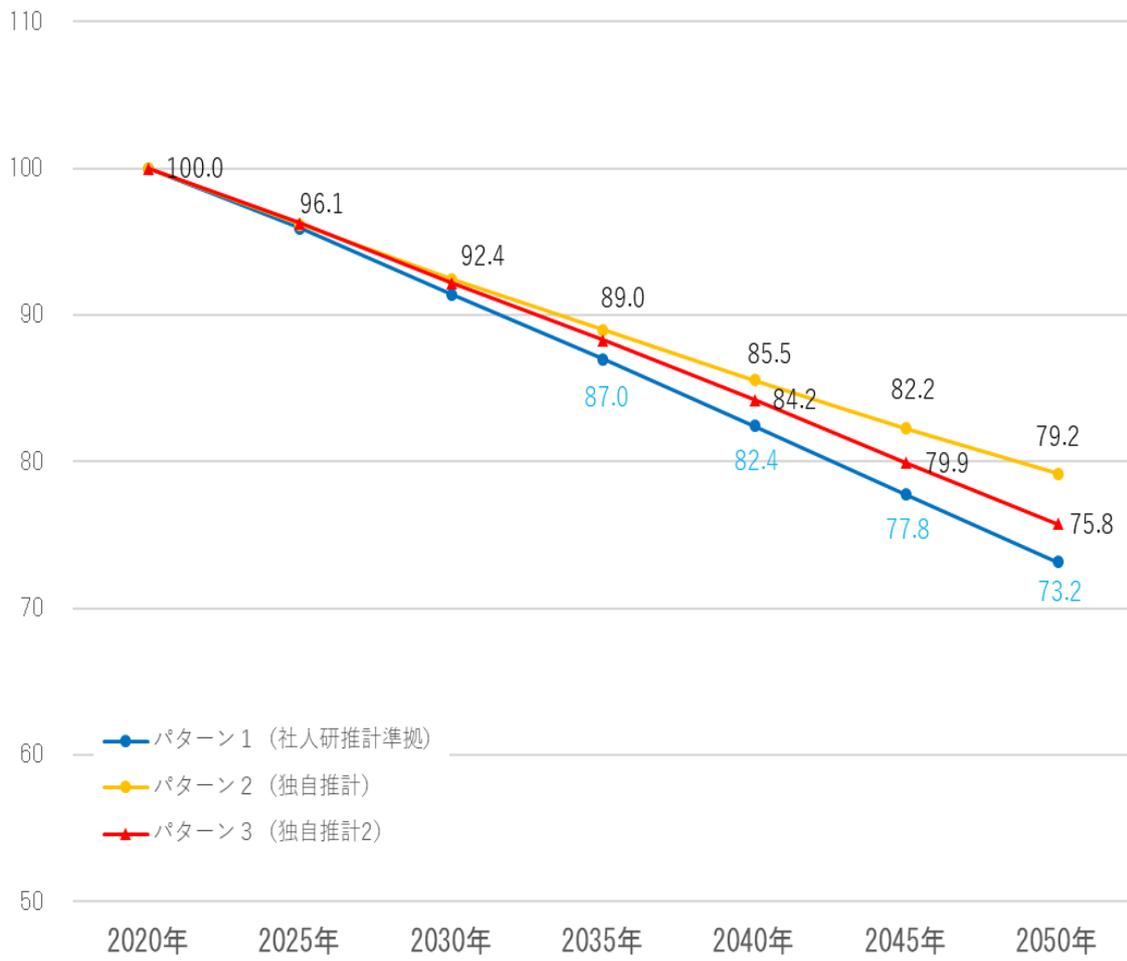
- ・パターン1では2050年には21,211人となる見通しだが、パターン2では22,953人、パターン3では21,962人となっている。いずれも人口は大幅に減少する見通しとなるが、合計特殊出生率の上昇及び純移動のバランスによって、減少傾向を緩めていくことが期待される。

小浜市の人口の長期的見通し



- ・各パターンで2030年までは1%程度の差で推移するが、2035年には2%差、2040年に約3%差、2045年には4%強、2050年には6%と年を追うごとに差が開いている。

小浜市の人口の長期的見通し（2020年を100とした指数）



4 小浜市の人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

① 実施した意識調査

市民の意識や意向、若い世代の意識や意向を把握するために、(ア) 市民意識調査、(イ) 成人式アンケート調査、(ウ) 高校生・専門学生・大学生アンケート、(エ) 市民との対話集会が実施されている。これら調査結果をとりまとめる。

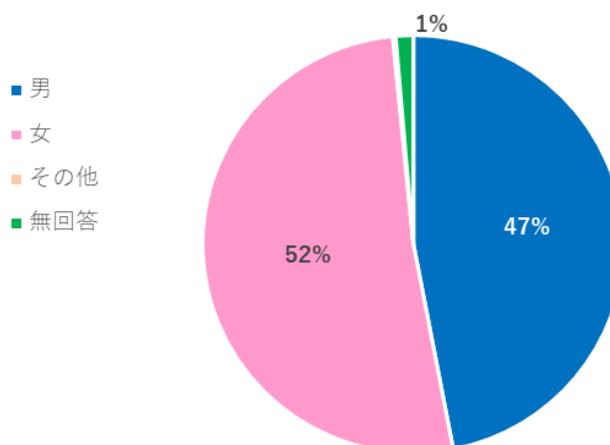
② 意識調査の結果概要

各調査において、結婚・出産について、子育て環境について、就業機会の創出について、U・Iターン（移住等）の促進について、地域の魅力について、その他特徴的なコメント等を整理する。

(ア) 市民意識調査

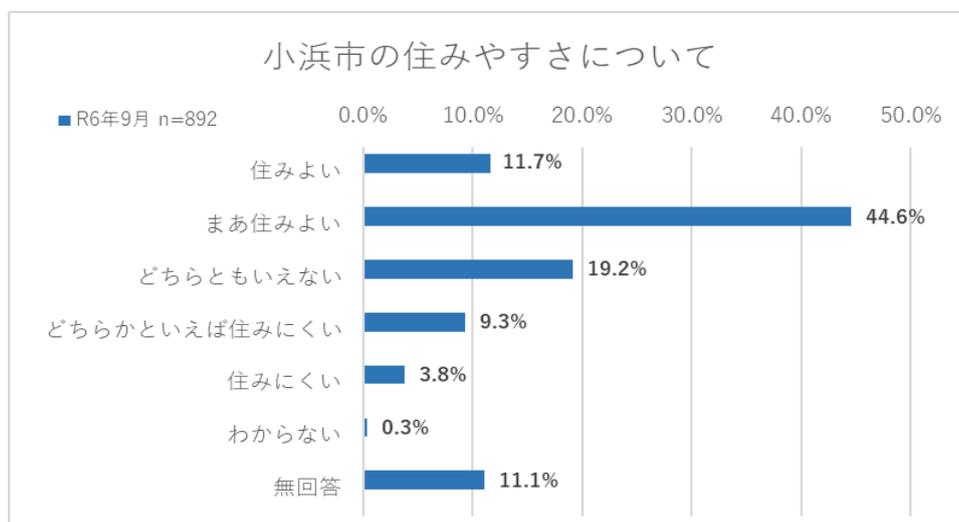
【回答者について】

- ・回答者の男女比は、男性 47%、女性 52%（回答者数 892 人）となっている。



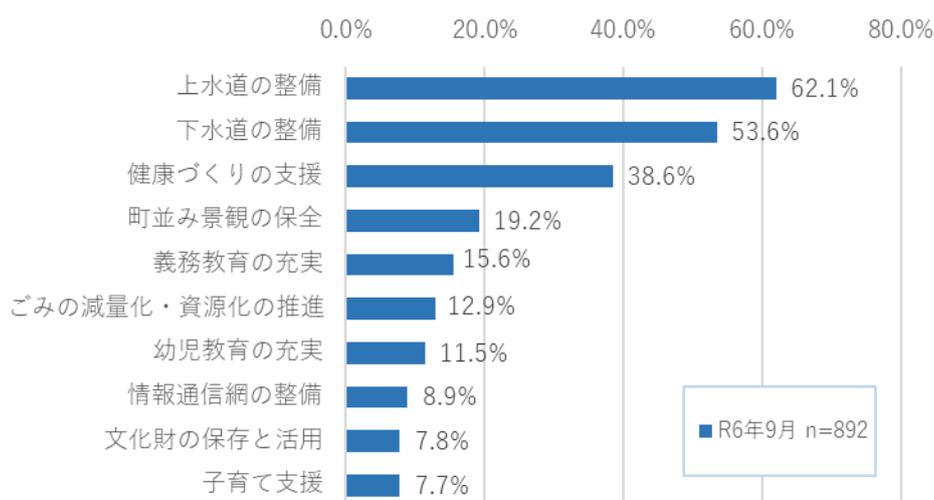
【小浜市の住みやすさについて】

- ・小浜市の住みやすさについては「住みよい」、「まあ住みよい」が 56.3%と前回調査の令和元年の 54.2%よりも 2.1%増加している。一方で、「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」が 13.1%と前回よりも 0.5%増加しており、住みやすいと感じている方が増えている一方で、住みにくいと感じている方も若干増えていることが分かる。

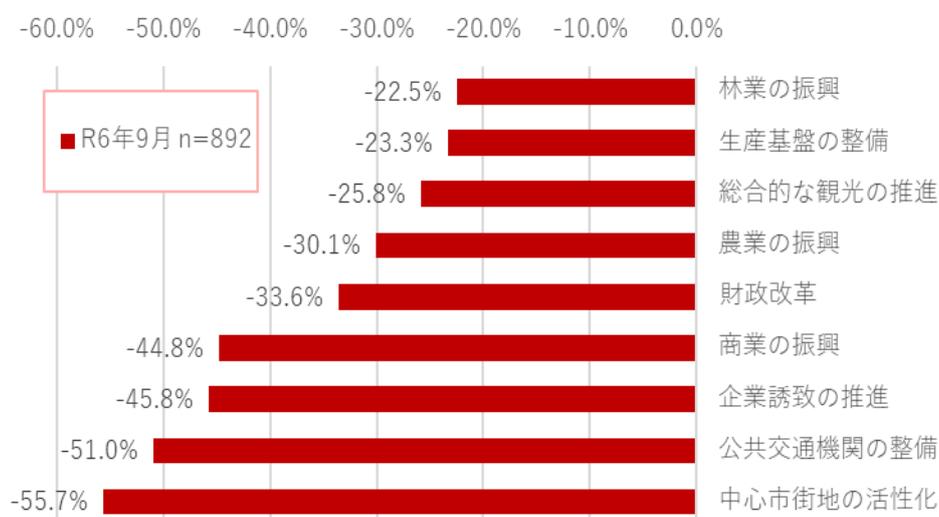


【小浜市の取り組みについての満足度】

- ・53項目（前回令和元年調査は52項目）で調査した小浜市の取り組みについての満足度のうち、満足度スコア上位10項目は「上下水道の整備」、「下水道の整備」が50%を超え、生活インフラの満足度が高いことが分かる。また、「健康づくりの支援」、「ごみの減量化・資源化の推進」のように生活利便性に係る内容や「義務教育の充実」、「幼児教育の充実」、「子育て支援」の満足度も高く、子育て環境についての評価が高いことが特徴となっている。さらに、「町並み景観の保全」や「情報通信網の整備」、「文化財の保存と活用」と地域の魅力に資する内容の満足度も高い。



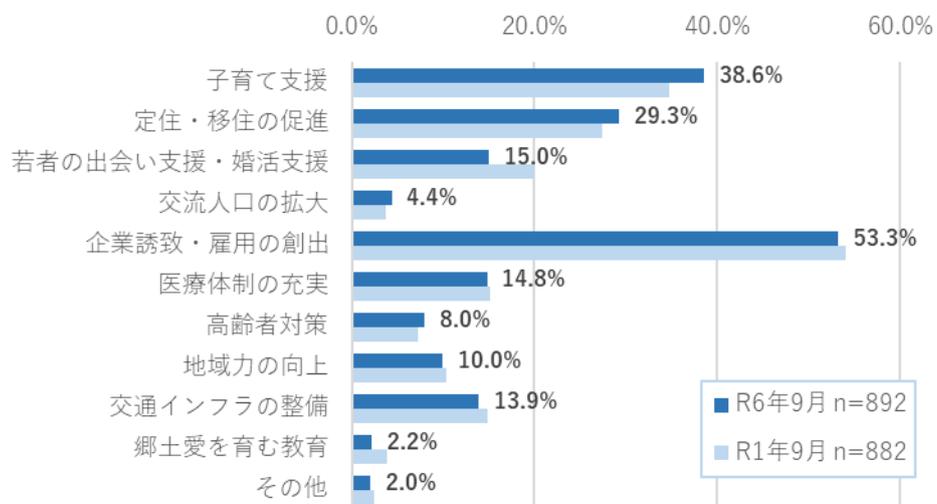
- ・上記のような高い満足度を得ている一方で、「林業の振興」、「生産基盤の整備」、「総合的な観光の推進」、「農業の振興」、「商業の振興」、「企業誘致の推進」、「中心市街地の活性化」の満足度が低く、就業機会の創出や産業の発展の面で課題がある。また、「公共交通機関の整備」の満足度も低く、移動利便性を高める施策の必要性も伺える。



・また、「道路網の整備」や「医療体制の整備」、「食のまちづくりの推進」については、高い満足率を得ている一方で、一定の不満率もあることから、満足度スコアの順位としては上位10項目には入っていない。現在の取り組みの良い点を維持しつつ、不満となっている点の解消や改善によって市民の満足度を高める効果が期待できる。

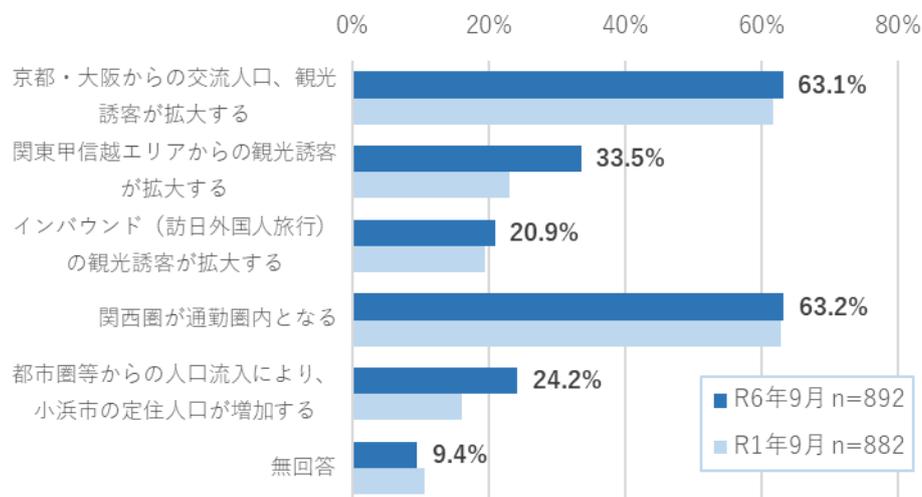
【人口減少対策】

- ・人口減少対策として、最も重要だと考えられているのは「企業誘致・雇用の創出」(53.3%)となっている。次いで「子育て支援」(38.6%)、「定住・移住の促進」(29.3%)と続いている。



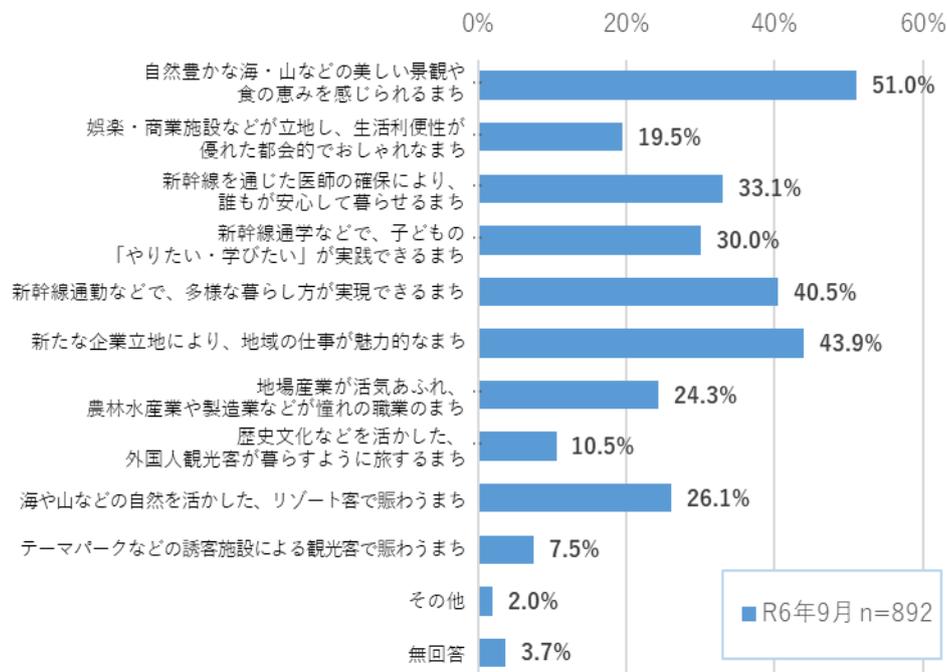
【北陸新幹線全線開業のメリット】

- ・全線開業のメリットとして、「関西圏が通勤圏になる」(63.2%)と「京都・大阪からの交流人口、観光誘客が拡大する」(63.1%)が最も多くなっている。次いで、「関東甲信越エリアからの観光誘客が拡大する」(33.5%)となっている。また、各項目とも前回調査時よりもメリットと感じている回答が多くなっている。



【北陸新幹線全線開業を通じた、まちの将来像】

- ・全線開業を通じて、「自然豊かな海・山などの美しい景観や食の恵みを感じられるまち」(51.0%)が最も多く、「新たな企業立地により、地域の仕事が魅力的なまち」(43.9%)、「新幹線通勤などで、多様な暮らしが実現できるまち」(40.5%)と続いている。今ある魅力を維持しつつ、移動の利便性向上効果を活かしていくことが期待されている。

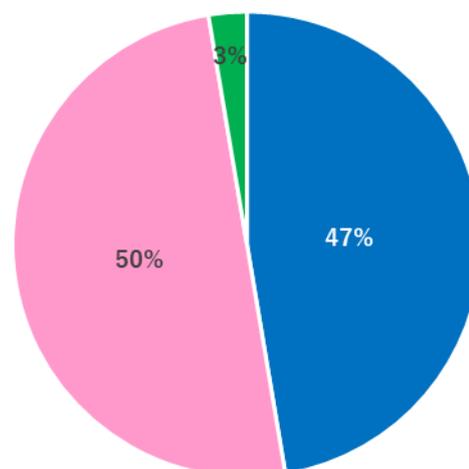


(イ) 成人式アンケート

【回答者について】

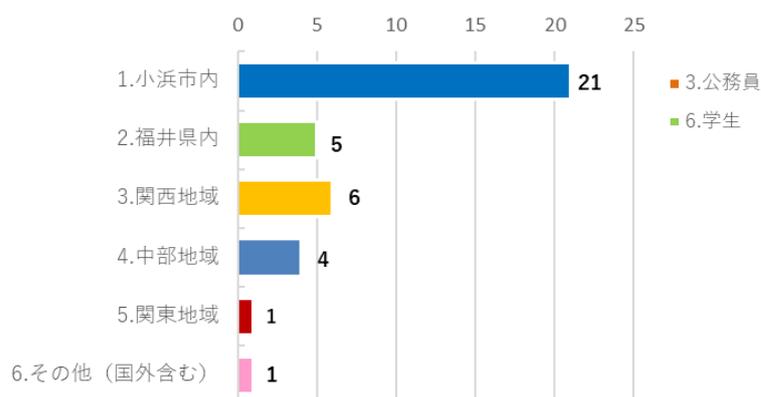
- ・回答者の男女比は、男性 47%、女性 50%（回答者数 38 人）となっている。

■ 男性
■ 女性
■ 無回答



【現在居住地について】

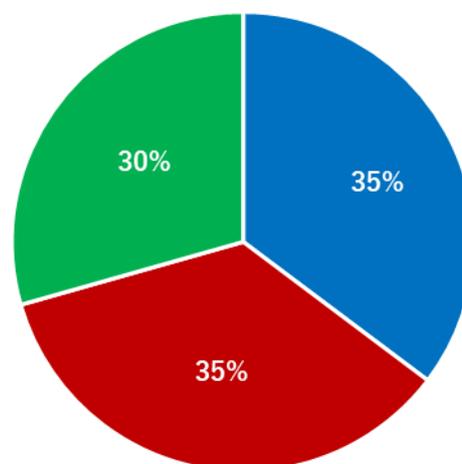
- ・小浜市内が 21 人と最も多く、小浜市外に住んでいる回答者は 17 人であった。
- ・小浜市外に住む 17 人のうち、94%は学生であり、6%が公務員となっている。



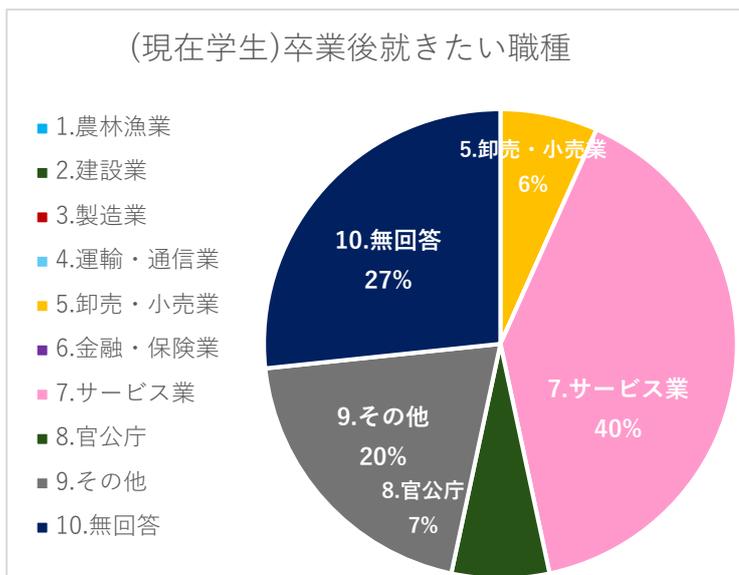
【市外在住学生の意向について】

- ・卒業後にUターンを「考えている」のは 35%、「考えていない」のも 35%、「わからない」が 30%と拮抗している。
- ・上記「考えていない」理由としては、「仕事がない」、「地元が嫌い」、「地元の就職情報がわからない」が挙げられている。

■ 1.考えている
■ 2.考えていない
■ 3.わからない



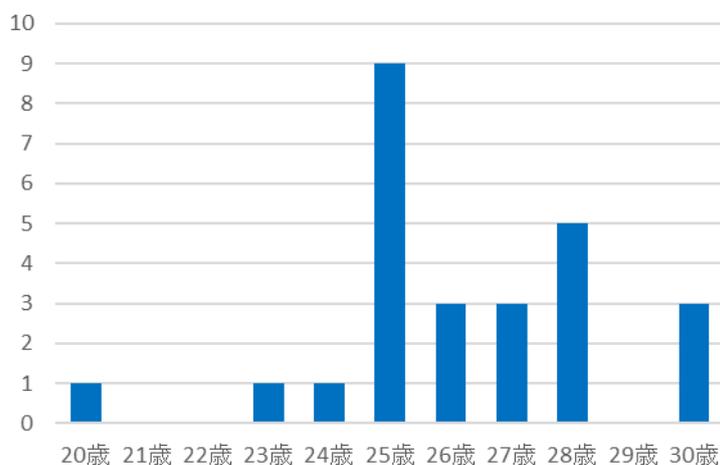
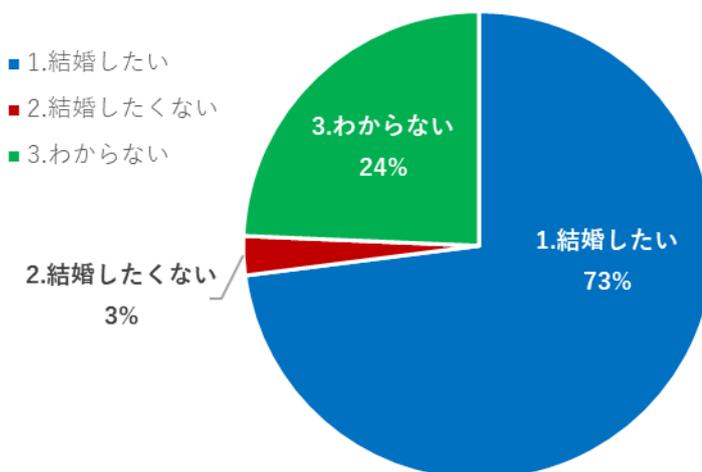
・また、卒業後につきたい職種について（グラフ参照）は、「サービス業」が40%で最も多く、「官公庁」が7%、「卸売・小売業」が6%となっている。「その他」には心理支援や看護師が含まれている。



【結婚の意向について】

・「あなたは将来結婚しようと考えていますか」の問いに対して73%は「結婚したい」と回答している。「わからない」は24%、「結婚したくない」は3%となっている。

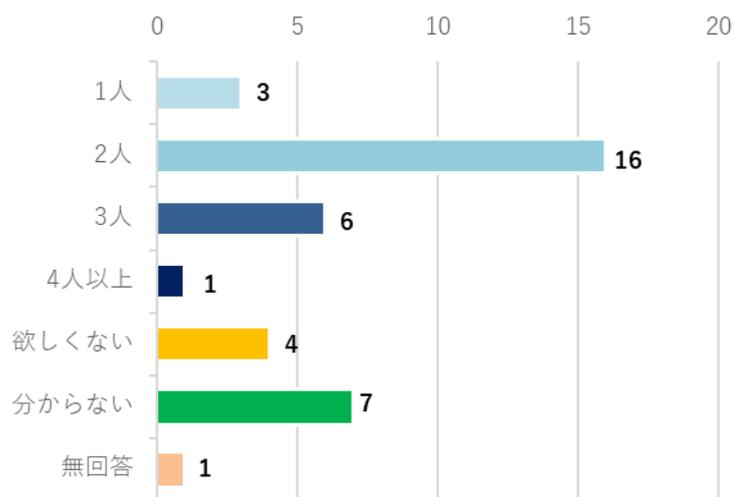
・「結婚したい」回答者が最も結婚したい年齢は「25歳」（9人）となっている。次いで、28歳（5人）、26歳・27歳・30歳（3人）となっている。



【欲しい子どもの人数について】

- ・最も多いのは「2人」の16人となっており、次いで「3人」(6人)、「欲しくない」(4人)と続いている。
- ・アンケート回答者が希望通りに子どもを産んだ場合、平均人数は1.839人となる。

※上記は人数が「分からない」人の出生率を、それ以外の「希望人数の合計数」／「回答者数」に設定している。

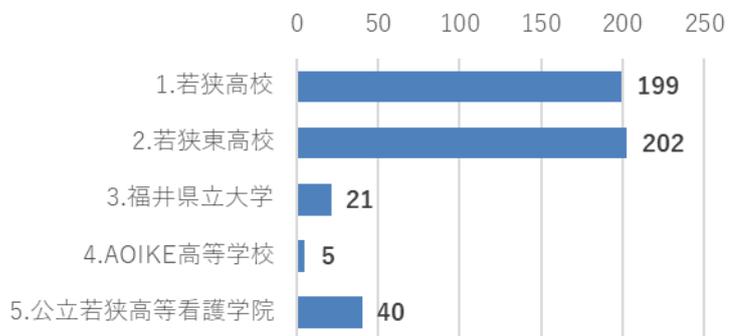
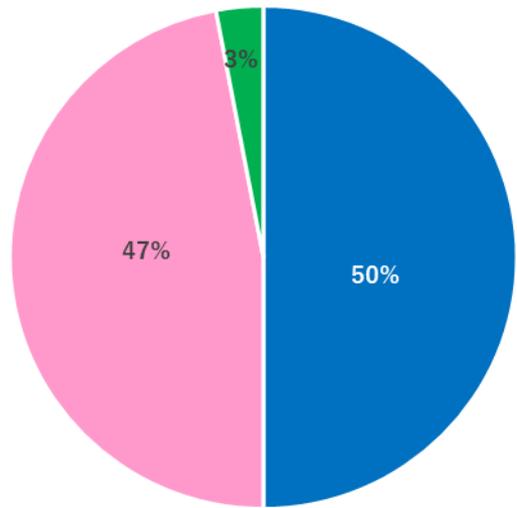


(ウ) 高校生・専門学生・大学生アンケート

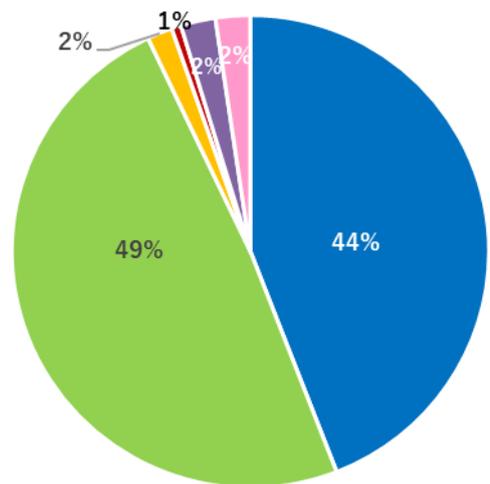
【回答者について】

- 回答者の男女比は、男性 50%、女性 47% (回答者数 466 人) となっている。
- 回答者の所属内訳は、「若狭高校」199 人、「若狭東高校」202 人と 2 校で 401 名と回答者の大部分を占めている。他には「福井県立大学」21 人、「AOIKE 高等学校」5 人、「公立若狭高等看護学院」40 人となっている。
- それぞれの出身地については、「小浜市内」44%、(小浜市を除く)「福井県内」49%となっており、多くの回答者が県内出身者となっている。

- 1.男性
- 2.女性
- 3.無回答



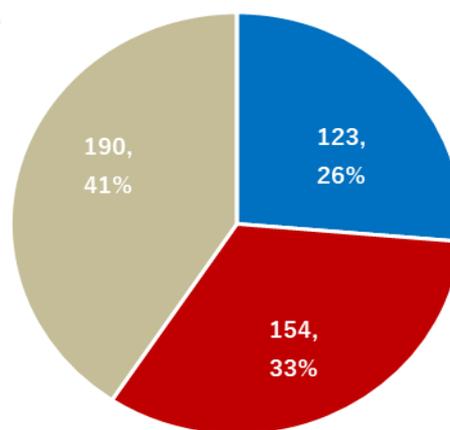
- 1.小浜市内
- 2.福井県内
- 3.関西地域
- 4.関東地域
- 5.中部地域
- 6.その他 (国外含む)



【卒業後の居留意向について】

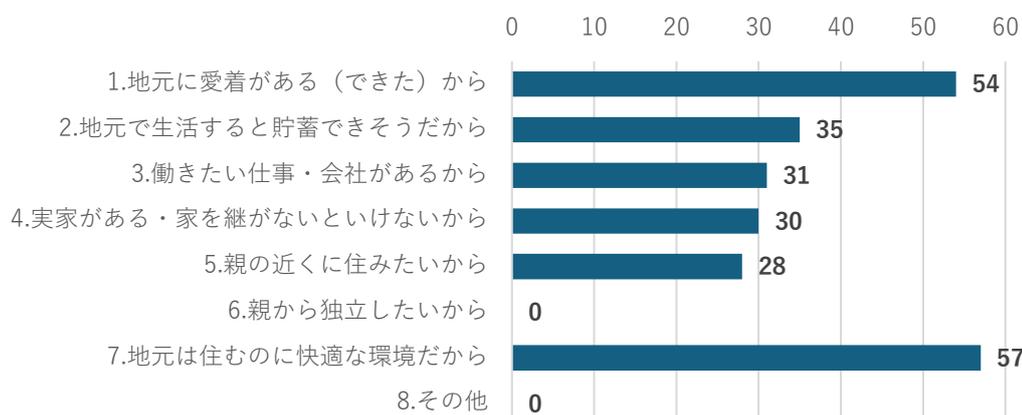
- 卒業後に「地元（出身自治体）（以下、「地元」という。）に住みたい」のは26%（123人）と「地元に住みたくない」33%（154人）よりも少なくなっている。また、「分からない」41%（190人）となっている。

- 1. 地元に住みたい
- 2. 地元に住みたくない
- 3. 分からない



- 「地元に住みたい」理由として最も多いのが「地元は住むのに快適な環境だから」（57人）が最も多く、次いで「地元にあ着がある（できた）から」（54人）と続いている。

地元に住みたい理由



- 「地元に住みたくない」理由として最も多いのが「地元では働きたい仕事・会社がないから」（89人）が最も多く、次いで「地元の生活は不便だから」（74人）と続いている。他にも希望する収入が得られなさそう、親から独立したい等も比較的多くなっている。

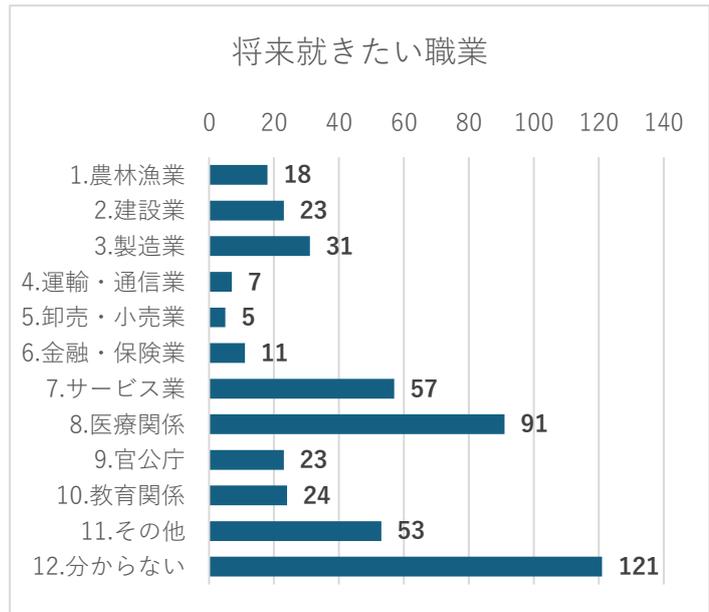
地元に住みたくない理由



【将来就きたい職業について】

・「まだ分からない」が121人と最も多くなっているが、「医療関係」(91人)、「サービス業」(57人)が多くなっている。

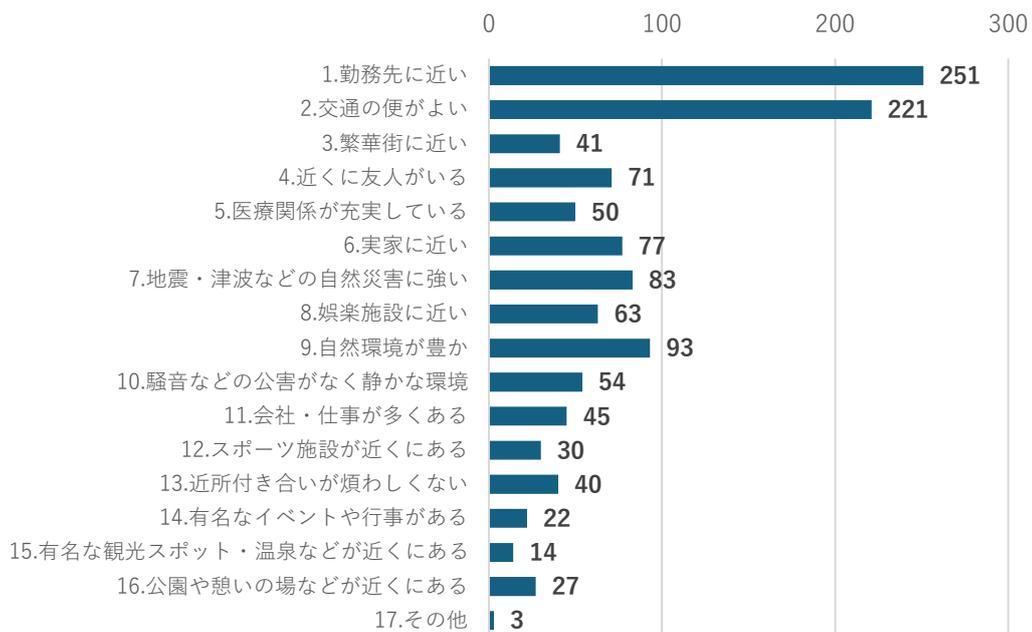
・「その他」では、複数回答があるものとしては、研究職、自動車整備士、事務職やプログラマー、スポーツ関連(選手、トレーナー等)となっている。



【居住地選択の際に重要視すること】

・「勤務地に近い」が251人と最も多く、次いで「交通の便が良い」(221人)となっている。以上2項目が200を超え、他項目よりも重要視する人が多いが、「自然環境が豊か」(93人)、「地震・津波などの自然災害に強い」(83人)等の小浜の資源を活かしたり、安心・安全のまちづくり等を推進することにより居住地の選択肢に入る余地は十分にあることが分かる。

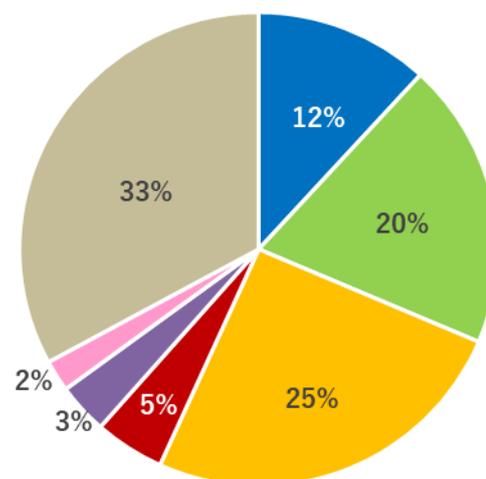
居住地選択の際に重要視すること



【30年後の居住地について】

- ・30年後の2055年に福井県内に住んでいる（住んでいた）と考えているのは32%（うち、小浜市内12%、それ以外20%）となっている。
- ・「関西地域」が25%と最も多く、距離が遠い「関東地域」（5%）とは大きく差が開いている。一方で、「分からない」が33%となっている。

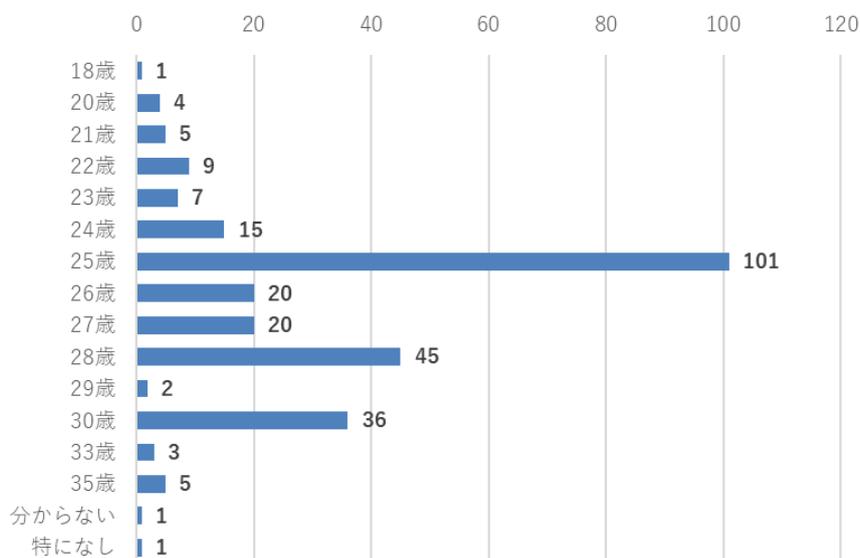
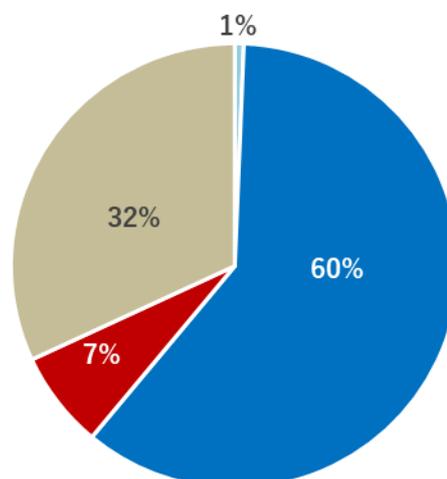
- 1.小浜市内
- 2.福井県内
- 3.関西地域
- 4.関東地域
- 5.中部地域
- 6.その他（国外含む）
- 7.分からない



【結婚の意向について】

- ・「結婚したい」が60%、「結婚したくない」が7%、「分からない」が32%となっている。（「既に結婚している」も1%（3人）いた）
 - ・結婚したい年齢は25歳が最も多く（101人）なっており、ほとんどが30歳までには結婚したいと考えている。
- ※「20代」回答者（10人）は中間値を取り、25歳で集計している。

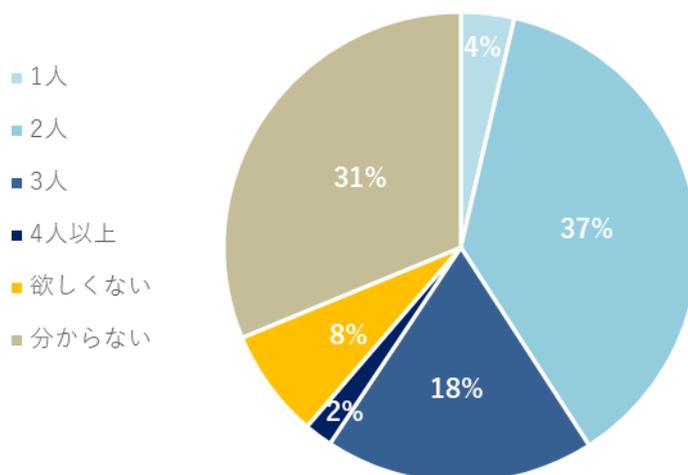
- 1.既に結婚している
- 2.結婚したい
- 3.結婚したくない
- 4.分からない



【欲しい子どもの人数について】

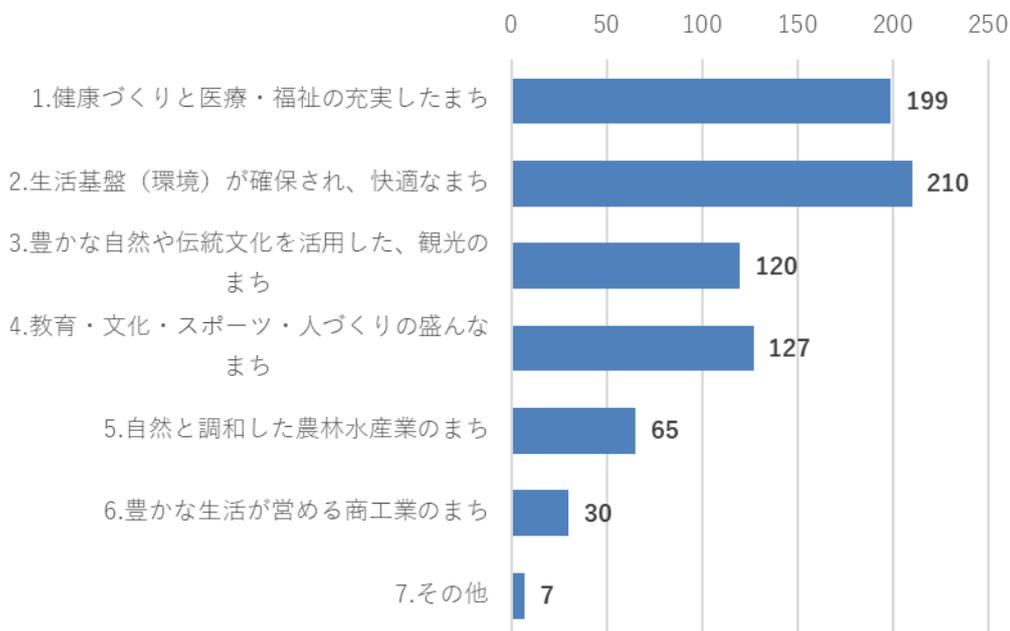
- ・最も多いのは「2人」(37%, 174人)となっており、次いで「3人」(18%, 86人)、「欲しくない」(8%, 35人)と続いている。
- ・アンケート回答者が希望通りに子どもを産んだ場合、平均人数は2.053人となる。

※上記は人数が「分からない」人の出生率を、それ以外の「希望人数の合計数」／「回答者数」に設定している。



【望ましいまちの将来像について】

- ・最も多いのは「生活基盤（環境）が確保され、快適なまち」(210人)となっており、次いで「健康づくりと医療・福祉の充実したまち」(199人)、「教育・文化・スポーツ・人づくりの盛んなまち」(127人)と続いている。



(エ) 市民との対話集会（令和6年度）

12地区の集会で出された意見について、結婚・出産や子育て環境・生活環境について、就業機会の創出やU・Iターンの促進に係る内容ごとに整理する。

I. 結婚・出産について

- ・40歳以上をターゲットにした婚活パーティーが重要になる。
- ・出会いの場を作るということで、結婚窓口を作っていただく。／外に出ないと出会いも少ないと思うので、外に出てもらうツール（歩けば歩くほどポイントたまる仕掛け等）があると良いのではないか。

II. 子育て環境や生活環境について

- ・子どもの遊べる場所がないので、特に室内の安全な場所を作っていただきたい
- ・保育園や小学校の子どもが、放課後のふれあいとなる行き場が少ない
- ・万人が集える場所、公園も必要
- ・保育園の給食費や空き家提供など、子育て世代の住みやすいまちにしていけると良い
- ・普段からごみのないまち／子どもが遊べる場所や楽しめる場所／文化・エンタメ施設など親子でお金を落としてもらえる場所が必要
- ・医療関係の充実が必要
- ・自然がすごくきれいで、自然に近い環境で子どもを遊ばせる場所に向いている

III. 就業機会（若者の働く場所）の創出について

- ・若い人の働く場所が少ない。小浜としては農業というのを基本に据えてやっていくのがいいのではないか。
- ・工業団地の設置を。雇用が多い企業が一つくるよりも、雇用が少なくても数で勝負した方がいいのではないか。
- ・「海場の農楽舎」ができないか。
- ・僕らは産業というところすぐ会社と思うんですけど、林業を活用してはどうか。

IV. U・Iターンの促進について

- ・移住していただく、あるいは2拠点居住を推進していただければいいかなど。そのためにはやはり安全・安心なまちづくりをお願いしたい。
- ・移住してきた人には畑をプレゼントするのはどうか。
- ・公共交通や、巡回バスとかデマンドタクシーとか、そういうものを合わせて移住者を増やして、釣りができる、ゆっくりできるという部分で、活気が出ると良い
- ・山ガール、海ガール、寺社ガールなど、そういった事に興味のある女性を増やす

V. その他

- ・防災や河川改修／交通インフラが必要
- ・ブランド米のPRや活用・展開
- ・漫画の聖地づくり

- ・ 市民と行政のコミュニケーション必要
- ・ 新鮮な魚を強みとして、小浜独自の目玉をつくることが大事
- ・ 市主催の大きなイベントを特定の地区だけでなく 12 地区を順番に回るような仕組み
- ・ 地域の相談役になるような市の専門的人材の育成
- ・ 鯉川シーサイドパークの活用について、グランドゴルフの設置や、キャンプ場の設置、アウトドアのイベントなどを募集してはどうか。

【(参考) 地域ごとのキーワード】

各地区での意見より、地区の特徴を捉えるのに参考となるキーワードを抽出する。

地区	キーワード
今富	防災／河川改修／南川／農業／ブランド米／岳風／安全・安心／2 拠点居住の促進／子どもの遊べる場所／屋内の安全な場所／若者が働く場所／漫画の聖地づくり／エンゼルラインの再利用／道路整備／公園
内外海	交通インフラ／地域住民の足／公園・遊具整備／空き家対策／漁業後継者／海の資源対策／海場の農楽舎／久須夜ヶ岳／キャンプ場／企業の本社誘致／付加価値／交通／防災／価値を生む／地理的な利点を生かす／小学校の利活用／阿野尻小学校／空き家／人材を育てる／人づくり／教育／エンゼルラインの有効利用／高齢者と若者の交流機会／移住／学生に遊びに来てもらう／公共交通の利用促進／県立大学とのタイアップ／里山里海のエコイズム／林道の有効活用／小浜独自のアンテナショップ
松永	市の公式 Youtube 開設／語り部／外国人による魅力発信／飲食業／YOSAKOI／イベントの活性化／小公園の整備／スケボーやストリートバスケットができる場所／地域の交流／一点突破／明通寺の活用／健康づくり／ゴミ置き場／防犯カメラ／看板になる有名料理／各コミセンに自動翻訳機設置
雲浜	防災／ハード整備（インフラ）／ふれあいサロンの会／高齢者／高齢者活動／発表する場の開放／災害避難／デマンド交通／市バス／文化会館のバリアフリー化／イベント／エンゼルライン／夕日のフォトコンテスト／自然を使った形でまちを PR／鯖街道ミュージアム／広報のあり方／まちの活性化、旭座の活用／空き家活用／高齢者向けやシングル向けのシェアハウス
国富	コウノトリ／水害をなくす／PR・コミュニケーション／国富米のブランド化／コウノトリ博物館／国富小跡地の活用／自動運転の周回バス／夜間景観／明かり／ライトアップ／御食国ソフトバレー大会／
西津	鯖をもっとアピール／ちりとてちん／祭による活性化／シルバーカフェの活用／西津が小浜を先導していく／山川登美子記念館／西津の海岸／海岸から見える夕日／街灯／お地藏さんぽ／空き家活用／小浜風景 100 選／
中名田	地域間の交通の便／寺・神社／文化財／食文化／祭／ホスピタリティ／おもてなし／感度持って発信／市のポータルサイト／田村のめぐみ／米粉クッキー／南川／アユ釣り大会／盆踊り／空き家活用／情報発信／動画作成する課／たけのこの谷／ジビエによる村おこし／高齢者の移動／田村米／伝統の引

地区	キーワード
	き継ぎ／和多田の和紙／茅の生産／養蚕／鹿や松茸／炭焼き／人間と野生の ところの境界／植林／若狭和紙／エンゼルライン
加斗	海の魅力／きれいな景色／釣り客／海ごみ、プラごみ／小学校教育／ゴミス テーション／ゴミ回収・処理の仕組み／国天然記念物／鯉川シーサイドパー クの活用／JA 跡地／空き家活用／耕作地・荒地／花いっぱい運動／古民家 カフェ／食改さん／キャンピングカー／洋上風力発電／風力発電
遠敷	小学校跡地活用／文化財を発信する拠点・センター／多目的複合施設／防災 拠点／観光 PR センター／土産物店／レストラン／子育て(支援)／古民家リ ノベーション／神ってる／歴史的文化遺産を活かした観光／おみやげ／姫神 社・彦神社／パワースポット／縁結び／鯖街道／上根来／雲海／象の通った 道／丹後街道／お水送り／ロゴマーク
宮川	マリンスポーツ／キャンプ場／活性化／消防団／コミュニティバス／古民家 再生／花の里宮川／公共交通機関／バス交通の充実／交流人口／風光明媚／ エンゼルライン／蘇洞門／トイレ整備／食でアピール／12 地区のいいもの物 産展／小浜音頭／区長業務効率化・負担軽減／若者の集いの場／シニア難民
小浜	まちの駅活性化／落語大会／まち並み／高齢者にやさしいまち／高齢者呼び 込む工夫／県立大学との連携／雪かき／放生祭の保存／小浜公園の活用／文 化施設／電柱地中化／景観の保持／社会福祉／小浜の花火／「幸齢者」PR／ マーメイド／長寿／老若男女／元旦マラソン／海山川／〇〇体験／はまかぜ 通り／エンゼルライン整備／朝市／ビアガーデン／テーマ・ストーリーを作 る／八百比丘尼／海彦山彦／伝説的なネタ／海から駅にかけての動線づくり ／文化会館／国宝巡り／ライドシェア／レトロバス／お金が落ちない／ここ に行けばみんながいるみたいな場所／リゾートライン／堅海キャンパス／小 浜公園から海岸線／意識改革／若者が楽しい場所
口名田	運動公園／村歩き／奥田縄の滝／須縄の滝／河川敷利活用／専門家のコンサル タント／地域のブランド／谷田部ねぎ／新田ごぼう／ちびっこ広場／(屋 内の) 球技場がない／人が基本／デマンドバス／バスターミナル／不法投棄 ／県道整備／若者がチャレンジできるお店や環境／ライドシェア／スマート AI／インフラ整備

(2) 目指すべき将来の方向

小浜市の人口は、社人研の推計によると令和 22 年には約 24,000 人、令和 32 年には約 21,000 人まで減少するとされていますが、可能な限り緩やかな減少としていき、持続可能なまちづくりを目指すものとし、「第 3 期小浜市総合戦略」における次の 3 つの主要テーマを推進していきます。

《①「ひとづくり」新たな時代を担う人を育むまち》

(1) 安心して、子どもを産み育てられる環境づくり

子育て相談窓口のワンストップ化、子育て拠点施設の充実、保護者への保健指導等の支援を強化することで、多様な保護者ニーズへ対応し、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。また、健康管理センターを中心に、妊娠、出産、育児などの各段階に応じたきめ細やかな支援体制の充実を図ります。さらに、仕事と子育てを両立できる環境づくりを推進します。

(2) 未来を創造する力を育む教育の推進

小中学校における探究学習をカリキュラムの中心に据え、「ふるさと教育」、「3S 学習」「教育 DX」「食育」を推進し、対話型の学習でさらなる学びの深化を図ります。更に、英語学習を強化し、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を目指します。「食育」では年長児の「キッズ・キッチン」、小浜らしい学校給食の公費負担による保護者負担の軽減と校区内型地場産学校給食を推進します。高校や大学等との他機関との連携を行い、活動の充実を図ります。

(3) 社会の担い手となるひとを育む環境づくり

LINE 等のツールを活用し、本市の魅力を戦略的に発信するほか、移住支援金制度、奨学金返納還の助成、結婚応援支援等、更に、協定締結大学と連携した学生の受け入れにより、UI ターンの促進および移住定住に努めます。

また、すべての市民が夢とシビックプライドを持ち、豊かでいきいきと暮らせる持続可能な活力ある社会を実現するため、地域住民との協働による社会教育の充実をめざします。

《②「しごとづくり」 活力ある産業と雇用の創出による稼ぐまち》

(1) 働きたくなる場と安定した雇用の創出

多様な業種の企業を積極的に誘致するとともに、新規学卒者や UI ターン者、女性や高齢者、障がい者など多様な人材の就職が円滑に図られるよう、企業とのマッチングや就職活動に対するサポート、企業の採用や職場環境の改善に向けた支援、安定雇用を創出します。

また、小浜市企業誘致戦略に基づき、若者や女性が働きやすい魅力ある企業として、高付加価値企業の誘致や IT 関連企業、事務系企業のサテライトオフィスの誘致をはじめ、起業やスキルアップへの支援など、誰もが快適に働くことができる環境の整備を進めます。

(2) 地域ブランディングの推進による地域経済の循環

ふるさと納税制度等を活用し、地域資源の効果的な活用と価値向上を図るとともに、有機農業をはじめとする環境にやさしい農業や、スマート養殖等の水産業、観光産業、また製造業などの産業基盤を支援し、地域経済の好循環を図ります。

また、本市の食と食文化が分野横断的に地域で好循環を生み出している点が評価され、全国唯一認定を受けた日本遺産プレミアム「御食国若狭と鯖街道」を軸とした御食国若狭おばまブランド戦略の推進を図ります。

(3) 地域資源を活用した交流人口の増加

北陸新幹線敦賀開業効果を最大限に活かすため、小浜が御食国の文化・暮らしを味わい楽しむ来訪地として選ばれるよう、面的開発・高付加価値化等、地域資源の魅力向上に取り組みます。

また、若狭湾プレミアムリゾート構想において、候補地の地域資源の価値を最大限引き出すため、県と連携し、取組を推進します。

《③「まちづくり」 地域資源を活かし安心して暮らせるまち》

(1) 安全・安心な暮らしの確保

市民が安全・安心に暮らせる生活環境を築くため、防災資機材や水、食料、生活用品などの備蓄物資の充実、防災体制の整備、避難所等公共施設の耐震化、避難支援個別計画策定等の防災対策の充実を図ります。また、自主防災組織や「小浜市防災士の会」との連携を強化します。

これらの取組を通じて、自助・共助・公助による防災・減災に向けた取り組みを推進します。

(2) 心身ともに健康で、いきがいのある生活の実現

豊かな食文化や自然環境を活かし、ライフステージにあわせた健康づくりを推進するとともに、官民連携を促進し、地域医療体制の充実を図り、保健・医療・介護等切れ目のないサービスを強化します。また、スポーツを通じたコミュニティの活性化や健康増進の取り組み等によるスポーツまちづくりを進めます。

更に、地域内における社会参加を促進し、生きがいを持った長寿のまちづくりを進めます。

(3) 市民が「対話によるまちづくり」を通じ、まちづくりに参画できる地域づくり

本市が進める「対話によるまちづくり」を幅広い世代を対象に実施し、地域力の向上を図るとともに、あらゆる世代の「挑戦」を応援するまちの実現をめざします。また、すべての人が多様性を認め合い、誰もが活躍できるダイバーシティ社会の実現をめざします。

(4) SDGsで目指す持続可能な社会の実現

北陸新幹線全線開業を見据えたまちづくりを進めるにあたり、SDGsでめざす持続可能な社会の実現を力にしながら、人の暮らしや働き方の変容に対応するため、「小浜市新まちづくり構想」をアップデートし、各施策を推進します。

また、小浜新幹線駅の早期整備に向けた環境を整えるため、県域を超える沿線自治体との連携ならびに市民等と対話を重ねながら、新駅周辺エリアの整備方針の検討を進めます。

(3) 目指すべき将来人口

小浜市では第1期人口ビジョンおよび第2期小浜市総合戦略において、令和22年における小浜市の人口約27,000人を目標に、各種の取組を進めてきました。しかしながら、人口減少・少子高齢化に歯止めが掛かっておらず、令和2年の国勢調査では28,991人となっています。

これまでの現状分析や社人研の推計、前人口ビジョン目標、独自集計を踏まえ、また、「第3期小浜市総合戦略」における取組をはじめとする今後の中長期的な人口減少抑制施策の効果を見込みながら、独自集計①を将来の目標と設定し、令和32年に約23,000人を目指します。

